

静岡大学情報学部情報システムプログラム卒業研究

地域と学校を連携した 学習支援システムの提案と試作

橋本 真吾(7051-0072)

2009年2月

指導教員：情報社会 湯浦克彦

卒業研究要旨

社会がますます複雑多様化し、子供を取り巻く環境も大きく変化する中で、学校が様々な課題を抱えているとともに、家庭や地域の教育力が低下し、学校に過剰な役割が求められるようになっている。

このような状況のなかで、これからの教育は、学校だけが役割と責任を負うのではなく、これまで以上に学校・地域の連携協力のもとに進めていくことが必要不可欠となっている。

こういった動きの中、文部科学省による学校支援地域本部事業はスタートしている。この事業は学校・地域が一体となって地域ぐるみで子供を育てる体制を整えることを大きな目的としており、結果として地域の教育力の向上を目指すものである。

また学校と地域のパートナーシップにより、学校を核として地域の教育力を高めたいこうとするもので、第一義的には学校の教育活動の支援を目的としている。

このため、学校のニーズに応じた支援が行われ、それが多様な教育活動や教員の子供と向き合う時間の拡大など教育活動の充実につながらなければならない。

そういった意味では、ニーズや不満といったものをどう整理し、工夫して、学校と地域で共有できるかが重要となる。

学校と地域との連携による支援は、息の長い着実な取り組みを進めていくことが何より重要である。そのため学校支援地域本部の持続的かつ自立的な活動展開が求められ、そのためには学校と地域ができる支援をできる範囲で行っていくことが大切である。

本研究ではこれらを踏まえ、学校から地域、地域から学校、あるいは学校同士、地域同士が相互にコミュニケーションを取れる場として、地域本部向け情報サイトを提案する。

学校と地域が置かれている深刻な現状に対応するためには、学校と地域関係を再構築し、さらには今後その関係を活性化させていくことが可能なシステムである必要がある。それらを踏まえて、上記の提案システムの活用法などを検証し、その実用性を考察する。

目次

第1章 序論	- 1 -
1. 1 研究の背景	
1. 2 研究の目的	
1. 3 論文の構成	
第2章 学校と地域の現状と課題	- 3 -
2. 1 学校の抱える問題	
2. 1. 1 学力低下	
2. 1. 2 いじめ	
2. 1. 3 校内暴力	
2. 1. 4 不登校	
2. 1. 5 教員の業務量増加	
2. 2 地域の抱える問題	
2. 2. 1 地域の教育力の低下	
2. 3 学校と地域を連携した先行事例「和田中学校」	
2. 3. 1 ドテラ	
2. 3. 2 夜スペ	
2. 3. 3 英語コース	
2. 3. 4 緑化安全	
第3章 学校支援地域本部事業	- 17 -
3. 1 学校支援地域本部事業について	
3. 2 学校支援地域本部事業の狙い	
3. 3 学校支援地域本部事業の活動	
3. 3. 1 地域コーディネーター	
3. 3. 2 学校支援ボランティア	
3. 3. 3 地域教育協議会	
3. 4 事業を実施していく上での留意点	
3. 4. 1 学校のニーズに応じた支援	
3. 4. 2 学校の意識改革と校長のリーダーシップ	
3. 4. 3 地域ぐるみ・社会総がかりでの取り組み	
3. 4. 4 関係部局間の連携および他の事業との連携	
3. 4. 5 持続的かつ自立的な運営	
3. 5 事業実現のための体制作りと浜松市の状況	

第4章 地域と学校を連携したシステムの提案.....	- 28 -
4.1 提案システム	
4.1.1 提案システムの目的	
4.1.2 提案システムの概要	
4.2 システムの試作	
4.2.1 CMS(コンテンツマネジメントシステム)とは	
4.2.2 XOOPSとは	
4.3 試作サイトの機能	
4.3.1 トップ画面	
4.3.2 地域本部コンテンツ	
4.3.3 人材情報コンテンツ	
4.3.4 求人情報コンテンツ	
4.3.5 交流の場コンテンツ	
4.4 事例に基づく提案サイトの模擬利用実験	
4.5 実験の評価	
第5章 結論	- 59 -
謝辞.....	- 61 -
参考文献	- 62 -

図表一覧

図一覧

- 図2. 1 『子供の学力低下状況の実感度』参考文献[5] Gooリサーチ
- 図2. 2 『子供の学力低下要因』参考文献[5] Gooリサーチ
- 図2. 3 『いじめ認知（発生件数）』参考文献[26]教育しが
- 図2. 4 『不登校児童生徒数の推移』参考文献[9] 文部科学省
- 図2. 5 『教員の業務量に関する質問（忙しいと感じるか。）』『データ参照、参考文献[12] 教職員の勤務に関するアンケート結果』
- 図2. 6 『家族類型別世帯割合の推移』参考文献[13]厚生労働省
- 図2. 7 『出生率の推移』参考文献[14] 少子化情報ホームページ
- 図2. 8-1 『和田中学校地域本部組織図』参考文献[15]和田中ホームページ
- 図2. 8-2 『和田中学校保護者会組織図』参考文献[15]和田中ホームページ
- 図2. 9 『地域本部と保護者会、連携図』参考文献[15]和田中ホームページ
- 図2. 10 『ドテラ登録者数推移』参考文献[16] 全国よのなか科ネットワーク
- 図2. 11 『英検合格者数』参考文献[15]和田中ホームページ
- 図3. 1 『地域本部に求められる事』参考文献[16]
- 図3. 2 『学校支援地域本部の体制』参考文献[19] 文部科学省
- 図4. 1. 1 学校支援地域本部事業の概念図
- 図4. 1. 2 マッチングの場
- 図4. 1. 3 交流の場
- 図4. 1. 4 活動報告
- 図4. 2. 1 XOOPSインストール画面
- 図4. 2. 2 XOOPSデータベース設定画面
- 図4. 2. 3 XOOPS管理者登録画面
- 図4. 2. 4 XOOPSインストール直後の画面
- 図4. 2. 5 XOOPSにおけるサイト作成手順のフローチャート
- 図4. 3-1 利用者の分類とその権限
- 図4. 3-2 地域本部向け情報サイトの構成
- 図4. 3. 1 地域本部向け情報サイトのトップページ（ゲスト）
- 図4. 3. 2 地域本部向け情報サイトのトップページ（ログイン後）
- 図4. 3. 3 地域本部向け情報サイトのアカウント情報
- 図4. 3. 4 地域本部コンテンツトップ
- 図4. 3. 5 見出し一覧画面

- 図4.3.6 活動予定画面（ドテラ）
- 図4.3.7 人材情報画面
- 図4.3.8 人材検索画面
- 図4.3.9 人材検索結果画面
- 図4.3.10-1 データ登録画面
- 図4.3.10-2 人材登録画面
- 図4.3.11 求人情報画面
- 図4.3.12 求人詳細画面
- 図4.3.13-1 求人画面「ご応募はこちら」
- 図4.3.13-2 求人応募画面
- 図4.3.14-1 サブメニュー「新規求人登録」
- 図4.3.14-2 求人登録画面
- 図4.3.15 フォーラムトップ
- 図4.3.16 フォーラム学校カテゴリー内トピック一覧
- 図4.3.17 フォーラムトピック画面
- 図4.3.18 返信フォーム画面
- 図4.3.19 新規トピック投稿画面
- 図4.3.20 投稿フォーム画面
- 図4.4.1 トピック「夏休みの勉強」
- 図4.4.2 トピックに対する要望、提案
- 図4.4.3 議題の盛り上がり
- 図4.4.4 サマスペ教員募集
- 図4.4.5 サマスペ報告

表一覧

- 表2.1 『2005年の学年別、校内暴力件数と対前年度比』データ参照、参考文献
[27]TransNews Annex
- 表4.1 OSSとして配布されている主なCMS
- 表4.2 地域本部向け情報サイトの主なコンテンツ
- 表4.3 モジュール名とその機能
- 表4.4 各コンテンツにおける権限

第1章 序論

1. 1 研究の背景

近年、社会の進展に伴って、物質的な豊かさが広まり、価値観やライフスタイルは多様化してきている。これにより、家庭とそれを取り巻く地域にまつわる事情も大きく変化してきた。地域社会においては、人々の集う機会が減少し、互いに支え合おうとする意識が弱まるなど、人間関係が希薄になってきている。この人間関係の希薄化という状況が、家庭を孤立させるとともに、学校や地域活動への参加意識を弱めるなどといった状況をさらに生みだしている。その結果、地域の教育力の低下が問題視されるようになった。

また、現在、全国の多くの学校において、学力低下、青少年の犯罪、いじめ、暴力、不登校など、様々な問題が深刻化している。これらの問題が減少することなく増加の一途をたどる原因は、学校とそれを取り巻く地域、それぞれの事情にあると考えられる。つまり、学校および地域が抱えている様々な問題を解決していくためには、学校と地域の在り方というものを今一度考え直していく必要がある。

こういった状況のなかで、文部科学省は平成20年度から新たに、学校と地域の関係を再考し地域ぐるみで学校教育を支援する『学校支援地域本部事業』を開始している。この事業は、学校と地域における現状を改善し、地域全体で学校教育を支援し、地域ぐるみで子どもの教育を推進するものである。つまり、地域と学校の教育力向上を図るという視点から、学校と地域の抱える問題を解決するためのアプローチである。

1. 2 研究の目的

本研究では、上記の『学校支援地域本部事業』に焦点を当てている。『学校支援地域本部事業』は学校と地域の教育力向上を図るものだが、平成20年度の新規事業であるため、その効果はまだ明確には出ていない。そこで、学校と地域における現状を調査し、問題点を抽出した後、『学校支援地域本部事業』の有用性を検証する。また、『学校支援地域本部事業』が目的としている、学校と地域の教育力向上を図ることを支援するツールとして、学校と地域がコミュニケーションを通して相互の信頼関係を構築し、『学校支援地域本部事業』の活性化を促すことが出来るシステムを提案する。

1. 3 論文の構成

本論文は全5章からなる。

第1章は、序論として、研究の背景として地域と学校の現状と問題点について述べた。また、研究の目的として、学校と地域がコミュニケーションを通して相互の信頼関係を構築し、『学校支援地域本部事業』の活性化を促すことが出来るシステムを提案することを述べた。

第2章では、学校と地域の現状とそれぞれが抱える問題について述べる。また、それらの現状・問題を解決するために、学校と地域が実際に連携した取り組みについて紹介する。

第3章では、学校支援地域本部事業について取り上げる。学校支援地域本部事業の概要とその目的から、今後の事業プランについて述べる。

第4章では、地域と学校を連携したシステムの提案を行う。提案システムの概要とその目的を述べ、試作サイトの構成や機能、利用方法などを紹介する。また、その試作サイトの有効性を考察する。

第5章では、結論として、本研究の成果をまとめ、今後の課題について述べる。

第2章 学校と地域の現状と課題

2. 1 学校の抱える問題

学校という言葉は、一般的には教育のための建物、または学生その他に対して教育が行われる場所のことである。また、そこでことに当たる人々を言うこともある（Wikipedia「学校」参照）。また、学校の種類も、小学校・中学校・高校・大学・専門学校など、多く存在しており、こういった意味でも広義に解釈される。そこで、本研究においては、学校とは小学校・中学校を示す事と定義する。また、同様に学生とは小学校・中学校の生徒を示す事と定義する。

近年、この学校が抱える様々な問題は深刻化しており、社会問題にも発展している。例として学校が現在抱えている問題の代表的なものを以下に示し、それらの現状を述べる。

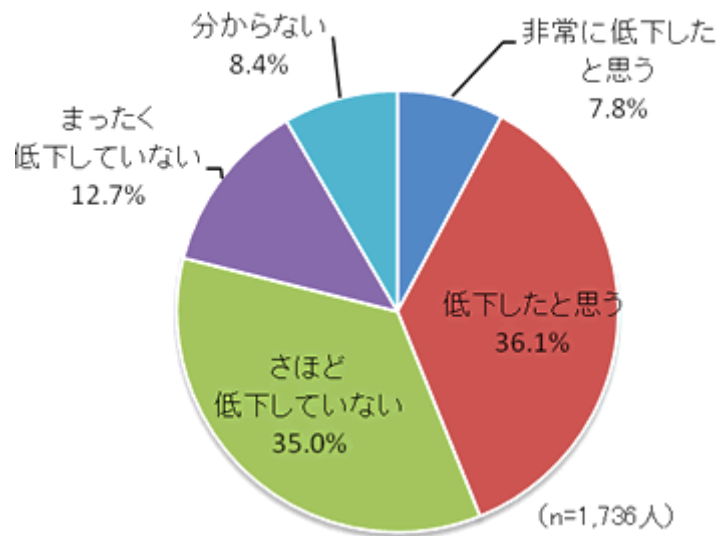
- ①学力低下 ②いじめ ③校内暴力 ④不登校 ⑤教員の業務量増加

2. 1. 1 学力低下

子供達の学力低下が注目されるようになったのは、2003年の「学習到達度調査ⁱ」において日本の順位が下がった事がきっかけである。2002年に「ゆとり教育ⁱⁱ」が始まっており、この事から、ゆとり教育による学力低下が問題視されるようになった。これを受けて、Gooリサーチが2006年に親世代を対象に行った「子供の学力状況調査」によると、「自分の子供時代と比べて子供の学力は低下しているか」という質問に対し、「低下している」と答えた人は全体の43.9%で、逆に「低下していない」と答えた人は47.7%と正反対の意見に二分されている（次頁 図2. 1）。この結果だけを見ると、親世代にとっては、子供の学力低下に関する実感はあまりないと推測できる。

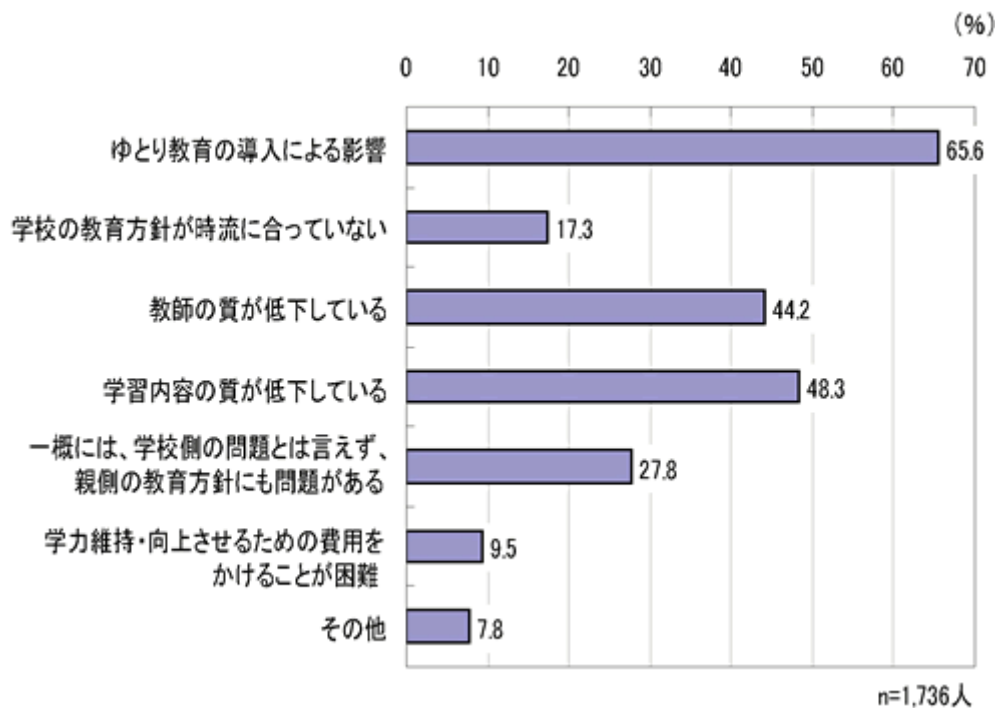
ⁱ 国際的な生徒の学習到達度調査のことで、義務教育の修了段階にある15歳の生徒を対象に、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシー、問題解決を調査するもの。国際比較により教育方法を改善し標準化する観点から、生徒の成績を研究することを目的としている。

ⁱⁱ 学習者が詰め込みによる焦燥を感じないように、学習内容を以前よりも縮小した教育のこと。学校週5日制や大幅な年間授業時数の削減が行われた。



【図2. 1 『子供の学力低下状況の実感度』参考文献 [5] G o oリサーチ】

しかし、同リサーチで「子供の学力が低下する理由」について尋ねると、65.6%が「ゆとり教育の導入による影響」と回答。次いで、「学習内容の質の低下」「教師の質の低下」が挙げられている（図2. 2）つまり、子供の学力が低下すれば、それはゆとり教育の影響だと考える親が多いということである。このように、ゆとり教育を問題視する親は多く、結果、ゆとり教育による学力低下が問題として物議を醸している。（G o oリサーチ参照）

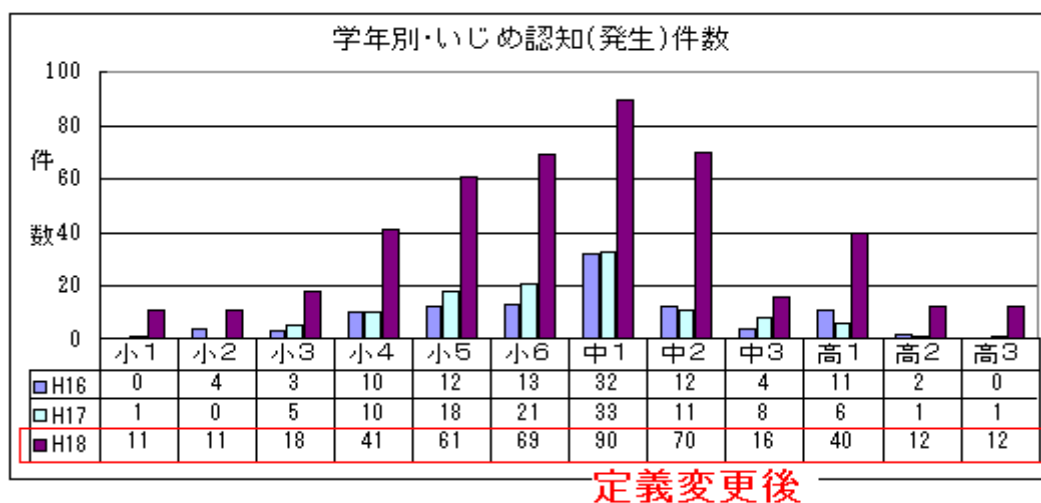


【図2. 2 『子供の学力低下要因』参考文献 [5] G o oリサーチ】

2. 1. 2 いじめ

文部科学省の発表によると、2006年度に全国で起きたいじめの件数は12万4898件であった。これは前年の2005年度の件数と比較すると6.2倍も多い件数である。このようないじめ件数の急増の背景には、「いじめの定義の変更」がある。これまでのいじめの定義は「自分より弱いものに一方的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているもの」であった。この定義には、「自分より弱い」「一方的」「継続的」「深刻な」といった限定的な言葉が含まれており、実質的にはいじめと判断されるような件であっても、定義から形式的に外れてしまうという問題があった。そこで、文部科学省はいじめの定義を見直し、新しいいじめの定義を「一定の人間関係のあるものから心理的・物理的な攻撃を受け、精神的な苦痛を感じている」とし、「いじめか否かの判断は、いじめられた子供の立場に立って行うよう徹底させる」とした。また、具体的ないじめの種類についても、「パソコン・携帯電話での中傷」「悪口」など心理的な攻撃が追加された。これにより、いじめの認知範囲が広いものになった。

このように、いじめの認知件数についてはわずかな定義によって大きく変わってしまう(図2.3)。しかしながら、定義を変えたところ実質的ないじめの発生件数が増減するわけではないため、国と自治体と学校と家庭のそれぞれが、いじめの本質と向き合って解決策を考えていかなければならない。ある調査結果によると、学校の教員がいじめを発見、通報したものは公立校で5割、国立校では3割に留まることがわかっている。それ以外は子供や保護者からの訴えでようやく発覚したもので、学校側が事実隠蔽に走る例も少なくない。学校側のいじめに対する向き合い方にはまだ課題が残ると言わざるを得ない。(日刊アメーバニュース「定義変更でいじめ件数6.2倍に」、Wikipedia「いじめ」参照)



【図2.3 『いじめ認知(発生件数)』参考文献[26]教育しが】

2. 1. 3 校内暴力

かつて社会問題とまで言われた校内暴力だが、その件数は多少の増減があるものの、今現在も相当数の報告がある。校内暴力の種類には、生徒間暴力・器物損壊・対教師暴力などがあるが、その中でも近年、件数が急増しているのが対教師暴力である。

2005年の文部科学省の調査によると、子供同士や器物損壊の校内暴力は10%台の増加だったのに対し、教師に対する暴力は336件の過去最多で、前年度の253件から33%増となっている。

また、学年別に見ると、中高生の校内暴力は減少し沈静化の傾向が窺えるのに対し、小学生の校内暴力には歯止めがかかっていないという結果が出た。(表2. 1)

【表2. 1 『2005年の学年別、校内暴力件数と対前年度比』

データ参照、参考文献[27]TransNews Annex】

2005年度	発生件数	対前年度比
小学生	1890件	18%増
中学生	23110件	6%減
高校生	5022件	4%減
全体	30022件	4%減

文部科学省は、小学校で校内暴力が増加している理由として、感情のコントロールがきかない子が増加傾向にあり、忍耐力や自己表現力、人間関係を築く力が低下していることが一因と指摘している。さらに、この結果を受けて、その原因について有識者たちの間では「家庭のしつけの見直しを」「ゆとり教育の反動による詰め込み教育の結果」といった論調が数多く見受けられる。(ALL ABOUT、徹底抗戦！桜魂 参照)

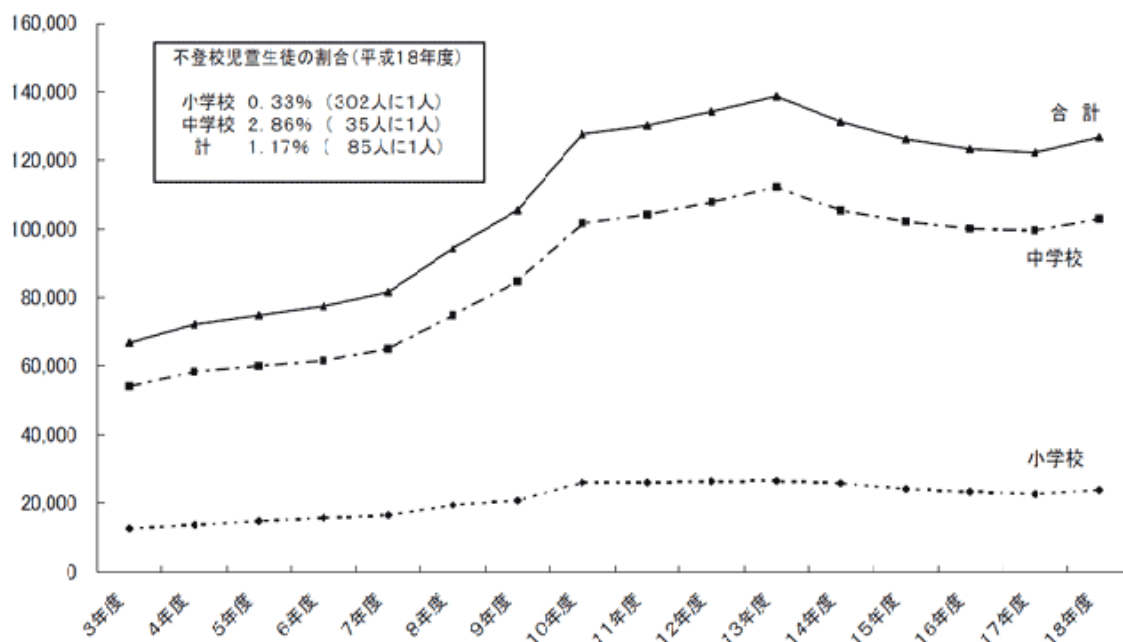
2. 1. 4 不登校

日本においては、義務教育制度があるため、学齢期の子供たちは自動的に小中学校などの学籍を得られ、就学することが出来る。しかし、この義務教育期間にある学生が、様々な諸事情から長期欠席するケースが急増した。これがいわゆる不登校問題であり、今日では、この不登校問題は拡大し大きな問題となっている。

長期欠席の理由としては、かつては病気・停学などの物理的要因が主であったが、現在はこれに加え、いじめによる精神的(場合により物理的)要因や、学業不振や吹きこぼれなどの教育問題、そして、学校に対する魅力低減など、様々な理由がある。

(Wikipedia「不登校」参照) 結果、不登校児童生徒数は年々増加してきた。文部科学省のデータを見ると、不登校児童生徒数は平成3年から平成18年までに、2倍以上に

なっているのがわかる。(図2. 4)



【図2. 4 『不登校児童生徒数の推移』参考文献[9] 文部科学省】

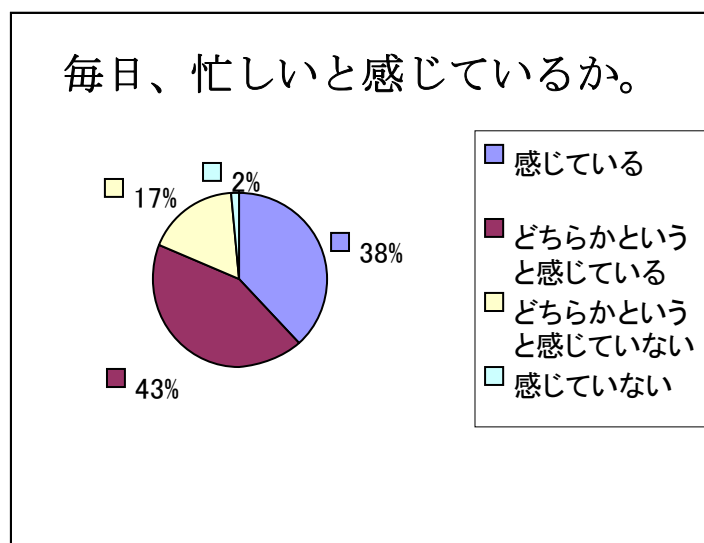
また文部科学省の調査によると、不登校になるきっかけは小学生と中高生では異なっており、中高生では友人、教師との人間関係や学業不振など「学校生活に起因」が最も高い割合で占めているのに対して、小学校では病気など「本人の問題に起因」が高くなっている。「学校生活に起因」しているものは、学校や家庭の取り組み如何では対処が可能なケースもあるため、不登校問題が発生した場合、教育環境の見直しが求められる。

2. 1. 5 教員の業務量増加

近年、教員の業務量増加が問題となっている。教員数の不足や、教育活動以外の業務の増加から、教員一人に対する全体的な業務量が増加しているのだ。平成14年に教職員の時間外勤務の実態把握や多忙感の原因調査のために行われた「教職員勤務実態調査」において指摘されたのは、「業務量の増大と複雑化」である。絶対的な業務量の多さが教員の多忙感の最大の要因であるということだ。特に、教務時間外に割り振られている業務の存在が問題視されており、具体的には部活動指導を筆頭に、交通安全指導やPTA関係の諸会議、家庭訪問、土日の講習・課外授業などがこれにあたる。これらの要因から、多忙感を毎日感じている小中学校教員は9割、高校教員は8割を超し、さらに疲労感・消耗感を感じる教員も全体の7割を超すと

いう、極めて危機的状況にあると言える。

さらに、平成17年に行われた教職員の勤務に関するアンケートでも、勤務時間内の業務量については、「多いと思う」「どちらかというと思う」の合計が79.8%という結果になり、約8割の教員が多いと感じている。また、勤務時間外の業務に関しても、一ヶ月に勤務時間以外で業務を行った時間は、一日平均130分という結果になり、約二時間も毎日勤務時間外の業務を行っていることになる。同様に、多忙感に関する質問でも、約8割の教員が忙しいと感じているという結果となった。(図2.5)



【図2.5 『教員の業務量に関する質問（忙しいと感じるか。）』『データ参照、参考文献[12] 教職員の勤務に関するアンケート結果』】

このことから、教員の業務状況に関しては早急に見直していく必要があるのは言うまでもない。業務量を減らすことは難しいが、業務の効率化を行うなど、教員の多忙感を減らすために、何らかの対策が求められている。

2. 2 地域

地域という言葉は、一般的には広義に解釈される。そこで、本研究においては、地域とは学校を中心としたそれを取り巻く区域を示す事と定義する。

近年、地域は様々な問題を抱えている。また、前述した学校が抱える様々な問題も、その地域と深く関わっていることが多く、その問題は深刻化している。

2. 2. 1 地域の教育力の低下

近年、家庭とそれを取り巻く地域の現状として、下記のもものが問題視されている。

- ①核家族化 ②個人主義の浸透 ③少子化

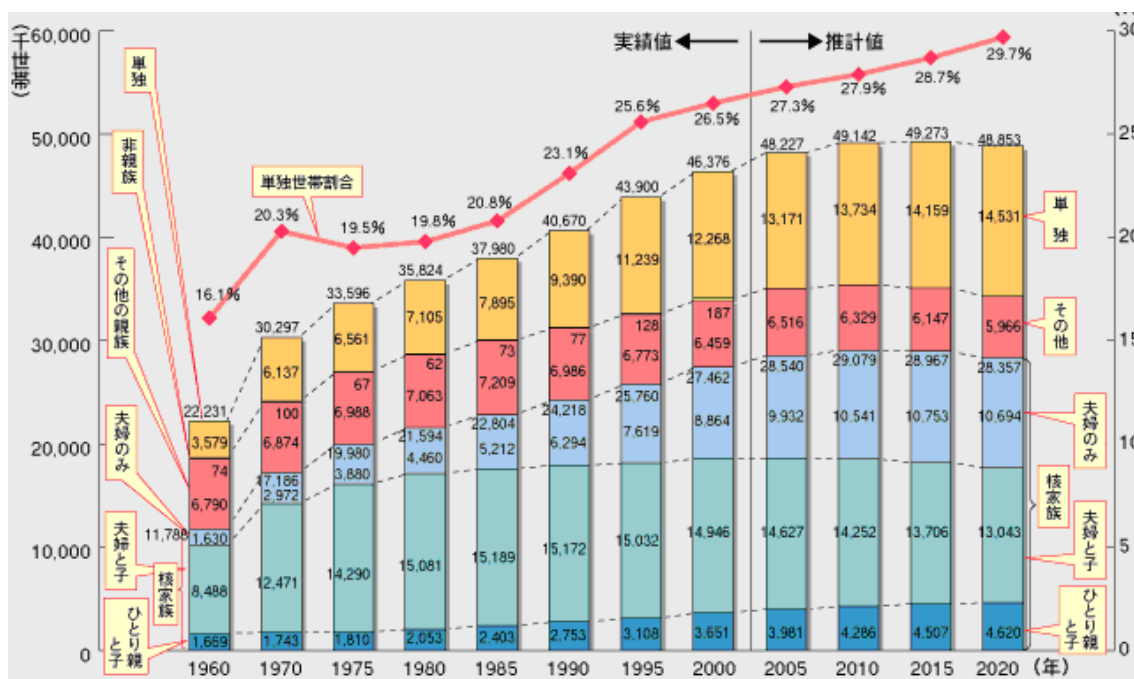
これらは、地縁的なつながりの希薄化を引き起こし、教育の観点から「地域の教育力の低下」として問題視されている。この「地域の教育力の低下」の現状を述べる

①核家族化

核家族とは、具体的に、次のいずれかからなる家族を指す。

1. 夫婦とその未婚の子女
2. 夫婦のみ
3. 父親または母親とその未婚の子女

現在、日本では、この核家族世帯が全体の60%近くを占めている。(Wikipedia「核家族化」参照)



【図2. 6 『家族類型別世帯割合の推移』 参考文献[13]厚生労働省】

②個人主義の浸透

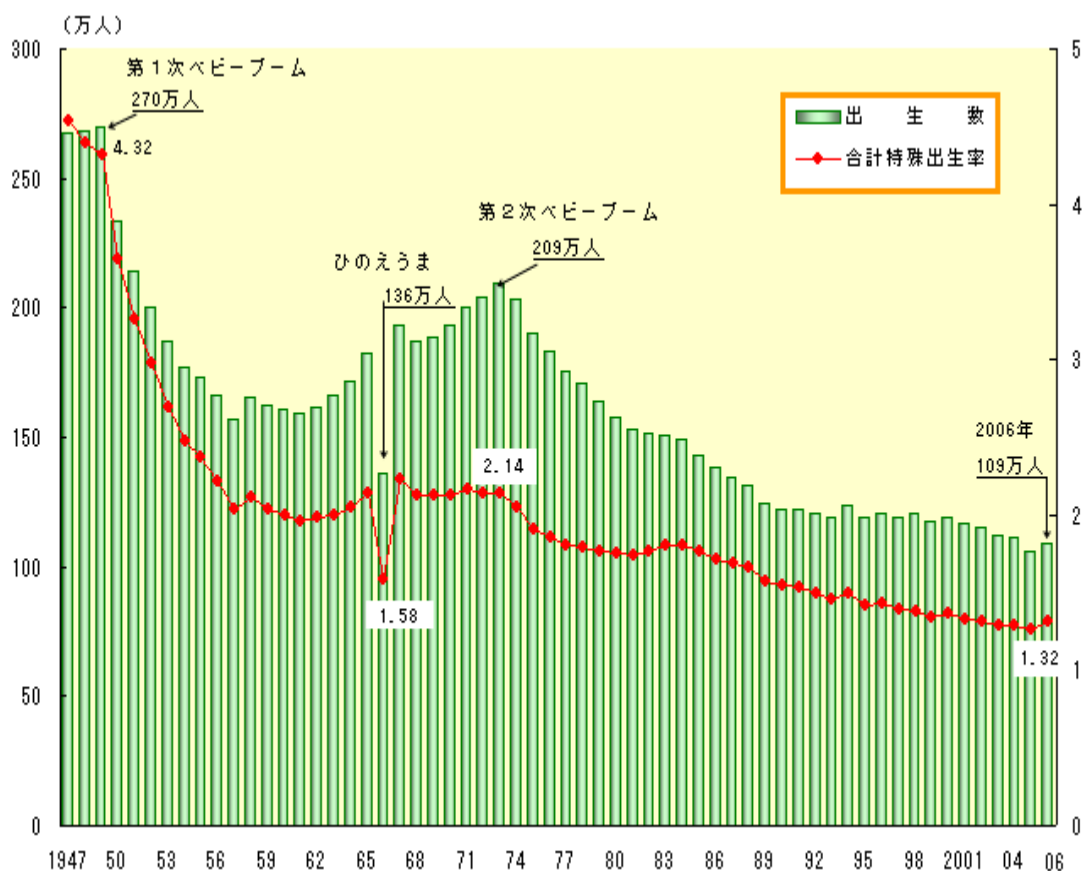
個人主義とは、国家や社会に対して個人の権利と自由を尊重することを主張することである。プライバシー（私事権）を強調する立場であり、自分の個人的意見、ライフスタイル、性向に対する干渉を拒絶することで抑圧的存在からの自由を示すとされる。(Wikipedia「個人主義」参照)

③少子化

少子化とは、子供を産む親世代の減少や出生率の低下により、子供の数が減少することである。この少子化の主な直接原因は、晩産化の進展による女性一人あたりの生涯出産数の減少である。

内閣府の「少子化に関する国際意識調査」によると、日本は「子供を増やしたくない」と答えた割合が53.1%で最も多く、「子供を増やしたい」と答えた割合も最も少なかった。(Wikipedia「少子化」参照) また、日本の年間出生数は1973年以降減少傾向が続いており、年別出生率の推移からも、少子化の現状が見て取れる。

(図2.7)



【図2.7 『出生率の推移』参考文献[14] 少子化情報ホームページ】

この核家族化、個人主義の浸透、少子化などの問題は、その地域における地縁的なつながりの希薄化につながると言われている。地縁的なつながりの希薄化によって、家庭は孤立し、それが子供の教育にも影響が出るのである。前述した学校の抱える問題は、この地縁的なつながりの希薄化によるところが少なからずあると言える。

しかし、これを逆に考えると、地縁的なつながりの希薄化を改善できるなら、それは学校の抱える問題の解決につながる可能性があるということになる。このことから、今、地域の教育力を向上させることが求められている。

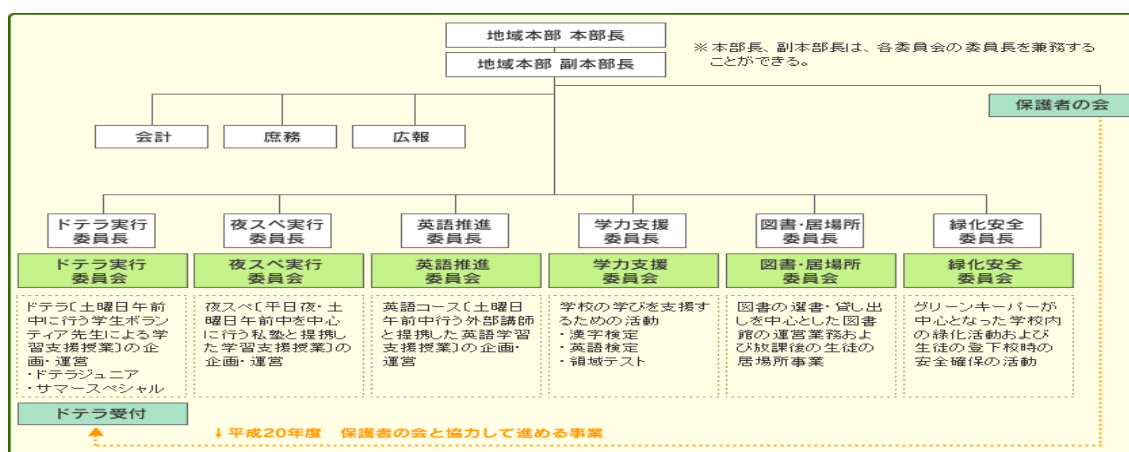
2. 3 学校と地域を連携した先行事例

「和田中学校」

東京都杉並区の和田中学校において、地域の教育力を向上させることを目的とした活動が行われているため紹介する。(和田中学校ホームページ参照)

『地域本部』

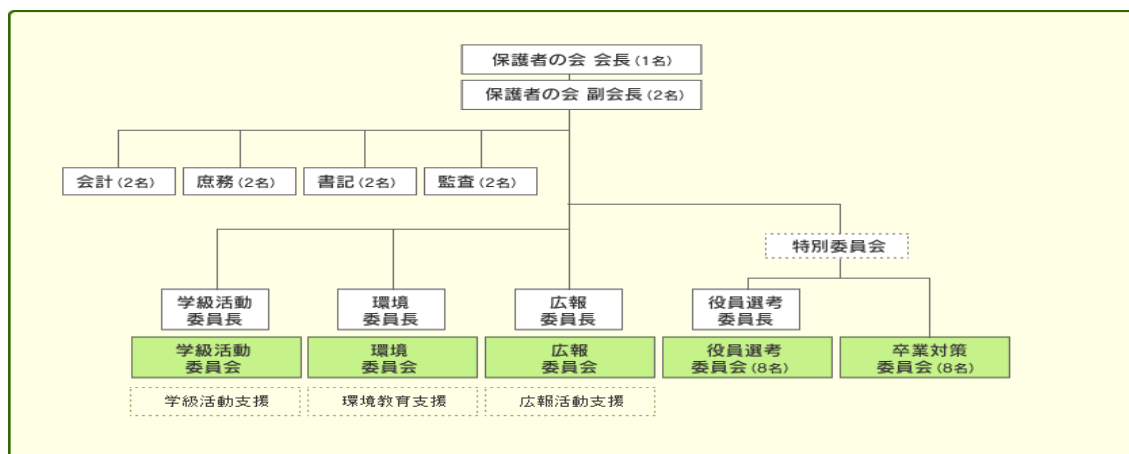
和田中学校地域本部は、学校の教育活動を支援するために設置された機関である。地域住民や元PTAメンバーを中心として登録された約40名の学校支援ボランティアが、日々活動をしている。(図2. 7)



【図2. 8-1 『和田中学校地域本部組織図』 参考文献[15]和田中ホームページ】

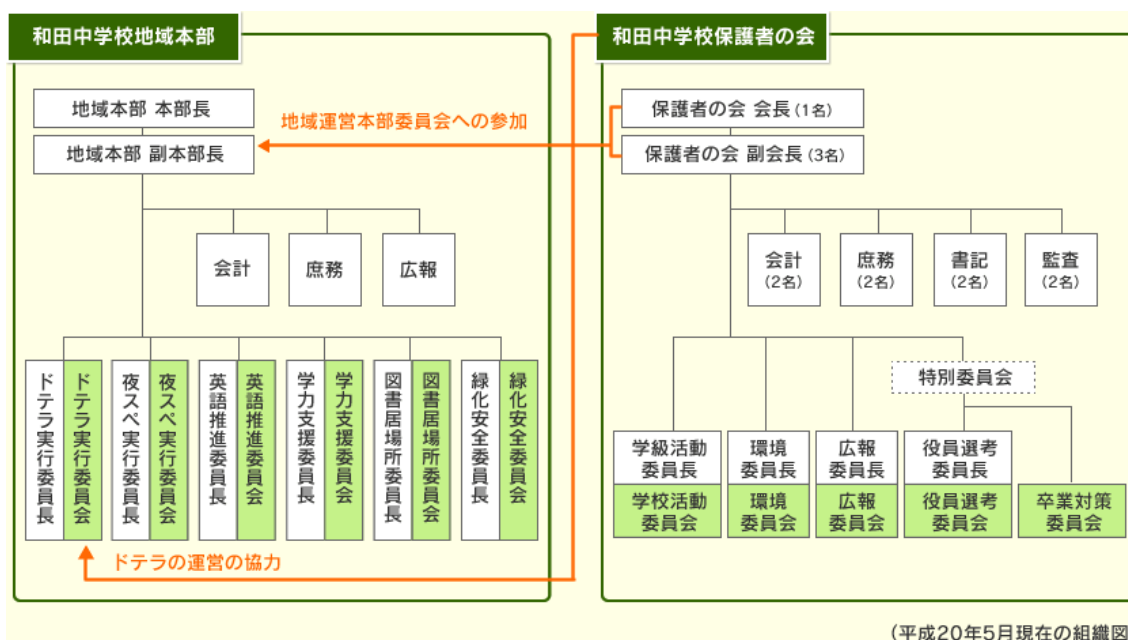
『保護者の会』

和田中学校保護者の会は、保護者で構成される会で、学校の教育活動を支援するために学校および、地域本部と連携をとりながら活動を行っている。(図2. 8)



【図 2. 8 - 2 『和田中学校保護者会組織図』 参考文献[15]和田中ホームページ】

和田中学校では、この地域本部と保護者の会が、将来的な統合を目指してお互いに連携をはかり、互いの組織の長所を活かしながら、和田中学校の教育活動を支援している。(図 2. 9)



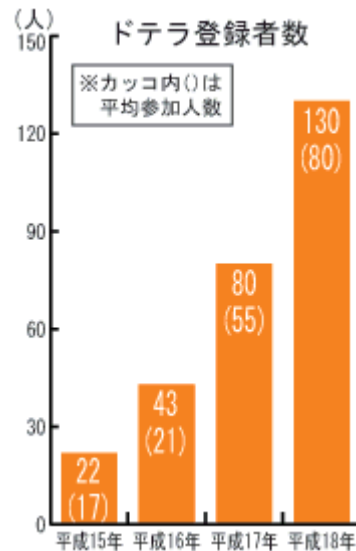
【図 2. 9 『地域本部と保護者会、連携図』 参考文献[15]和田中ホームページ】

この地域本部の実際の活動内容として、以下にいくつか例を挙げ、その詳細を紹介する。

- ①ドテラ
- ②夜スペ
- ③英語コース
- ④緑化安全

2. 3. 1 ドテラ

地域本部に登録されている学校支援ボランティア（略称「学ボラ」、学生だけではなく社会人、フリーターやニートも含まれる）が、土曜日や夏休みに希望する生徒に勉強を教える活動のこと。地域本部が学ボラの募集を行い、年間計画に基づき組織的に運営を行っている。土曜日の午前中の時間を有効に使いたい生徒のために、生徒たちの自主的な学習をサポートする目的で始まった。そのため、生徒の参加は任意制とし、生徒には年間 5,000 円の会費を負担してもらっている。ドテラでは、生徒はその日に勉強したいもの（学校や塾の宿題、予習・復習、テスト勉強や受験勉強のワークシート）を自由に持込み、自主的に勉強し、学生ボランティアがサポートにあたる。このドテラの参加人数は、4年間で約6倍に増えた。(次頁 図 2. 10)



【図2. 10 『ドテラ登録者数推移』参考文献[16] 全国よのなか科ネットワーク】

このドテラは、生徒と学ボラの両者にとって、それぞれ2つの効果が期待されている。生徒にとっては、

(1) 一人で学習する習慣のなかった生徒が、学習する姿勢を身につけること。学ボラの丁寧なマンツーマン指導により、学習意欲の向上と学力アップを目指せる。

(2) 教師や親とは別の価値観や考え方を持つ、お兄さんやお姉さん、おじさん、おばさんから暖かい支援を受けることにより、自尊感情の育成につながる。

また、学生ボランティアにとっては、

(1) 教員志望の学生にとっては、実際に中学生と継続的に触れ合える環境の中で、自分の可能性や資質を見極めることができる。

(2) 学ボラ同士の情報交換によって、教育実践として様々な手法をケーススタディとして情報交換・体験でき、ノウハウを蓄積することができる。

このような効果が得られるからこそ生徒と学ボラの登録者は年々増え、ドテラは年その規模を拡大出来ているのである。(和田中学校流「最強の学校支援本部の作り方」参照)

2. 3. 2 夜スペ

和田中学校地域本部主催による夜スペシャル(略称「夜スペ」)と名付けた補習授業が、2008年1月26日より実施された。これは公立中学校では難しいとされる学力上位層の学力伸張を目指し、都立の進学指導重点校や私立の中上位校を目標とするものである。

具体的には、大手進学塾サピックスより講師を派遣してもらい、成績上位者を対

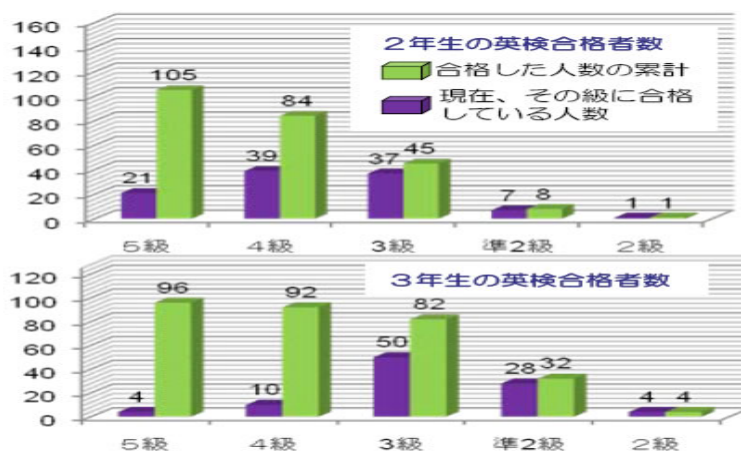
象に有料（1万円～2万円）で授業を行った。また、地域本部が実費を負担し、費用が払えない人には授業料免除制度がある。

この夜スペは、希望する生徒が多かったため、同年5月末から希望者全員が受講できるようになり、中下位者まで対象が拡大された。

塾が学校へ入ったことにより、学校・教員の役割は何かを問われることになったが、夜スペを始めてから和田中学校への入学希望者が学区内外から大幅に増えており、「公立中の成功例」として伝えられている。（Wikipedia「和田中学校」参照）

2. 3. 3 英語コース

これは、外部講師と提携した英語学習支援授業のことである。英語検定（略語「英検」）の成果向上を目標にしており、Listening World というリスニングの教材をメイン教材として、聞くトレーニング、ネイティブの話すスピードと同じスピードでの音読トレーニングを毎回の授業で徹底して実施している。これにより、英検3級やさらにその上の英検準2級の合格者が増え、高い質の授業であることを証明している。（参考文献[17] Enjoy Teaching English）（図2. 11）



【図2. 11 『英検合格者数』参考文献[15]和田中ホームページ】

2. 3. 4 緑化安全

グリーンキーパーが中心となった学校内の緑化活動および生徒の登下校時の安全確保の活動を、地域本部が運営する形で行っている。緑化活動に関しては、生徒も参加することで、環境意識の高揚など顕著な教育効果が得られた。また、生徒の登下校時の安全確保は、保護者からの要望も多く、こういった場面でこそ、地域の協力というものが求められている。そういった意味で和田中学校は、地域本部がその地域の軸となり、うまく地域の協力を得ることで、このような活動が支えられていると言える。

和田中では、以上のような取り組みを地域本部が主催する形で行っており、見事に地域の教育力を向上させ、学校と地域が連携した教育が行われていると言える。これにより、前述した学校の抱える問題をある程度は解決することが出来た。その中でも、特に学力低下と教員の業務量増加の問題に関しては、学校と地域が連携した教育を行うことで大幅な改善が見込まれるということで、この和田中学校の成功結果を受けて、地域本部という存在は一気に全国に広まっていった。

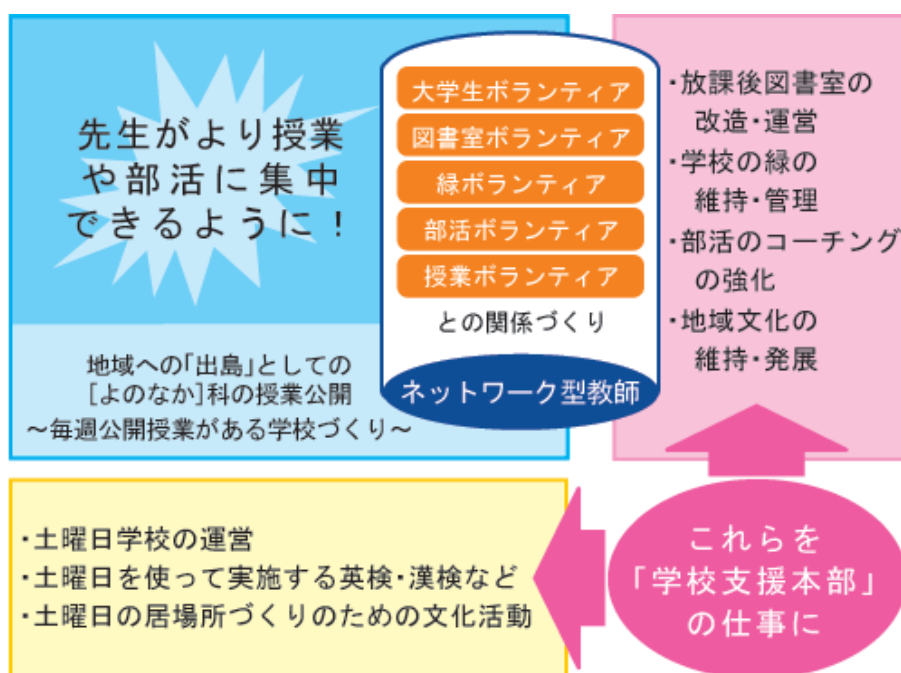
第3章 学校支援地域本部事業

文部科学省は平成20年度新規事業として、学校支援地域本部事業を実施している。この学校支援地域本部事業は、地域の教育力の低下や教員一人一人の勤務負担の増加に対応するため、地域ぐるみで学校を支援するものである（図3.1）。

これまで、PTA、学生や卒業生など学校外の市民が積極的に学校支援活動を行ってきたこととして、以下のような事例がある。（参考文献[18]参照）

・東京都杉並区には、小中学校67校のうち17校に学校支援本部があり、住民がボランティア活動に参加している。杉並区立和田中学校では、学校を核にした「市民」社会づくりを目指し、土曜日の学習サポート、学校図書館の司書業務サポート、校内の緑地化など、市民が積極的に学校の支援活動を実施している。

・東京都の小平市教育委員会では、「地域で育てようすこやか子供」を合言葉に、家庭・学校・地域社会が一体となって教育改革に取り組んでいる。子供たちの安全確保から授業支援まで、地域全体で学校を支援する活動を実施している。



【図3.1 『地域本部に求められる事』参考文献[16]】

3. 1 学校支援地域本部事業について

近年、都市化、核家族化、個人主義の浸透、地域における地縁的なつながりの希薄化等に伴い、家族や地域の絆が弱まっている。これは、子供達にとって、今まであった、地域の住民と交流することにより様々な経験をする機会を減少させ、その経験から学んでいた「社会性」や「信頼関係」を作り上げていくことを困難にしている。

また、学校教育においては、教育活動以外の業務など、教員の業務量の増加が問題となっており、教員が、子供一人一人に対するきめ細やかな指導をする時間を確保するために、教員の勤務負担を軽減するサポート体制の充実が必要とされている。

これらの課題に対し、文部科学省では、教育委員会、PTA、地元企業等の支援団体の協力を得て、学校と地域との連携体制の構築を図り、地域全体で学校教育を支援する体制づくりをする「学校支援地域本部事業」を平成20年度から実施している。

具体的には、地域住民が積極的に学校支援活動（例えば、学習支援活動、部活動指導、環境整備、登下校安全確保、学校・地域との合同行事の開催等）に参加し、教員を支援することにより教員の負担軽減が図られるだけでなく、地域住民と児童生徒との異世代交流を通して、弱まった地域の絆を回復させ、地域の教育力を活性化させようとするものである。

また、公民館等の社会教育施設で行われている学級講座等で地域住民が学んだ成果を生かす場・機会を与え、学習意欲の向上にもつながると期待される。（参考文献〔19〕参照）

3. 2 学校支援地域本部事業の狙い

社会がますます複雑多様化し、子供を取り巻く環境も大きく変化する中で、学校が様々な課題を抱えているとともに、家庭や地域の教育力が低下し、学校に過剰な役割が求められるようになっている。このような状況のなかで、これからの教育は、学校だけが役割と責任を負うのではなく、これまで以上に学校、家庭、地域の連携協力のもとに進めていくことが不可欠となっている。このため、平成18年におよそ60年ぶりに改正された教育基本法に、学校・家庭・地域の連携協力に関する規定が新たに盛り込まれた。

○教育基本法（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力）

第13条 学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする。

学校支援地域本部は、これを具体化する方策の柱であり、学校・家庭・地域が一

体となって地域ぐるみで子供を育てる体制を整えることを大きな目的としている。

具体的には、それぞれの学校の状況に応じて地域ぐるみで学校の教育活動の支援が行われることで、

(1) 教員や地域の大人が子供と向き合う時間が増えるなど、学校や地域の教育活動のさらなる充実が図られるとともに、(2) 地域住民が自らの学習成果を生かす場が広がり、(3) 地域の教育力が向上することが期待される。

まず1点目については、①教員だけでは担いきれない、あるいは必ずしも教員だけがすべて行う必要がない業務について地域が支援することにより、教員が、より教育活動に専念でき、より多くの時間を子供と向き合うことや授業準備等に充てられるようになる。また、②子供たちが多様な知識や経験を持つ地域の大人とふれ合う機会が増え、多様な経験の機会や学習活動、部活動の充実、学校の環境整備等が一層図られるとともに、多くの大人の目で子供たちを見守ることで、よりきめ細かな教育にもつながる。さらに、③子供の地域に対する理解やボランティアへの関心も高まる。これらは、子供の「生きる力」の育成に大きく資するものである。

2点目については、地域住民が意欲と関心を持って自らすすんで学校支援活動に参加することは、これまで培ってきた知識や経験を生かす場が広がり、自己実現や生きがいづくりにつながるもので、特に、次代を担う子供のために学習成果を生かすことは、教育基本法に定められている「生涯学習の理念」にも適い、社会的にも大きな意義がある。

○教育基本法（生涯学習の理念）

第3条 国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

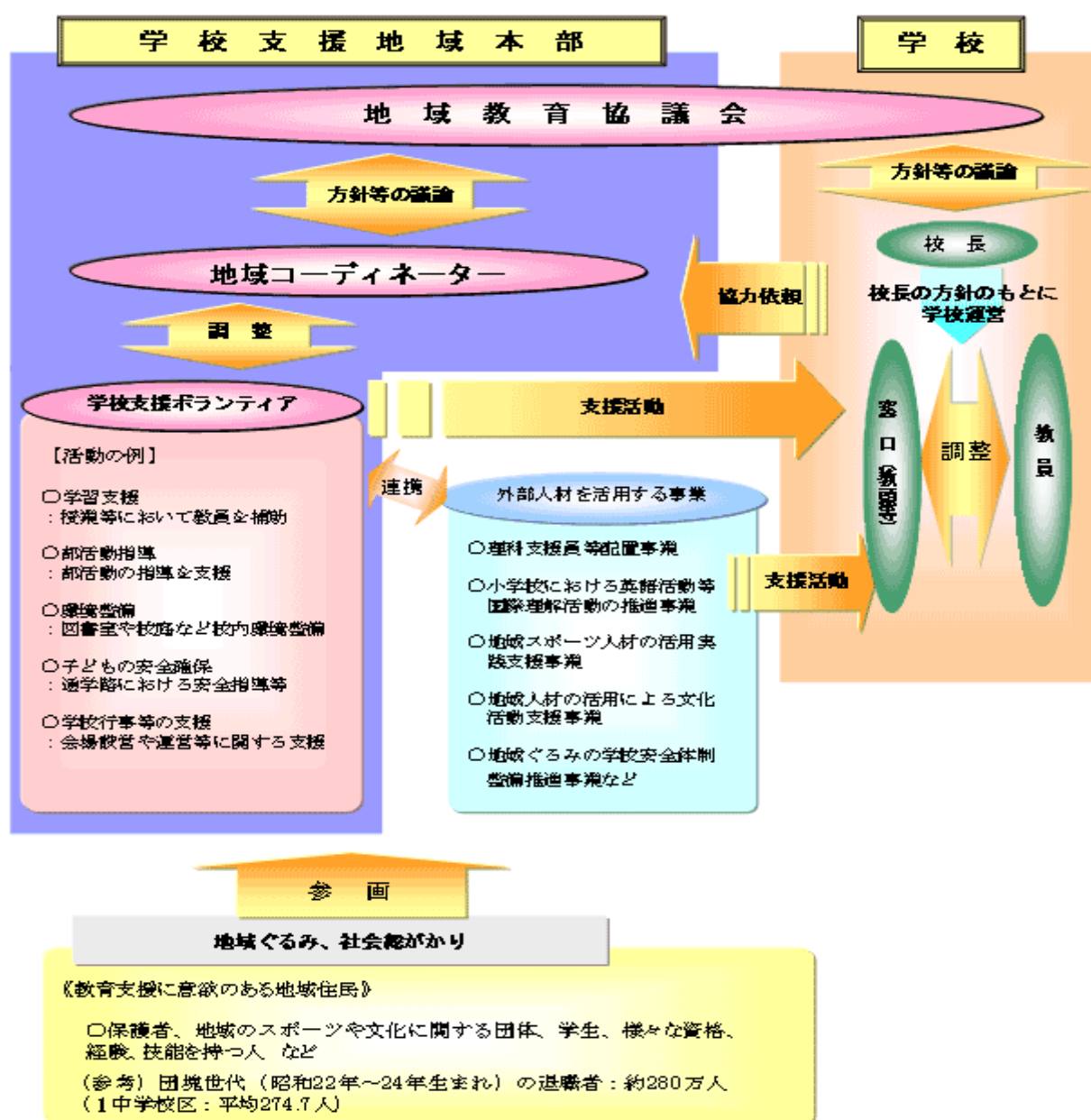
これらの結果、3点目として、地域住民が子供の発達段階に応じて教育を行う学校で活動することで、近年その低下が指摘されている地域の教育力（地域住民が、子供の健全育成のため、例えば、人を思いやること、自然やものを大切にすること、社会のルールを守ることなどについて、子供たちに対し、その発達段階に応じて適切な働きかけを行う力）が向上し、これにより、地域の絆が強まり、地域が活性化することが期待される。

このように、学校支援地域本部は、それぞれの地域の教育機能を、地域住民の力をフルに活用しつつ、学校を中心に再構築しようとするものである。（参考文献〔20〕参照）

3. 3 学校支援地域本部事業の活動

学校支援地域本部は、基本的には、「地域コーディネーター」、「学校支援ボランティア」、「地域教育協議会」から構成される（図3. 2参照）

※ただし、すでに学校支援ボランティアの仕組みが設けられている場合には、必ずしも変更する必要はなく、それを活用することも可能であり、学校や地域の状況に応じて様々な形態が考えられる。また、中学校区ごとに設置されることが想定されるが、学校ごとに設置することなども考えられる。



※上記は標準的な例であり、地域の実情に応じ実施内容等は異なる。

【図3. 2 『学校支援地域本部の体制』 参考文献[19] 文部科学省】

3. 3. 1 地域コーディネーター

「**地域コーディネーター**」は、学校支援ボランティアに実際に活動を行ってもらいなど、学校とボランティア、あるいはボランティア間の連絡調整などを行い、学校支援地域本部の実質的な運営を担うもので、学校支援地域本部の中核的役割を担い、その成果を左右する重要な存在である。これまで学校が行うことが多かった連絡調整の業務を地域が自ら行うことで、学校の負担軽減にも配慮する。地域の実情により、複数のコーディネーターやボランティアの代表で担うことも考えられる。

※ただし、学校においても窓口となる担当を決める必要があるが、ボランティアの連絡調整自体はあくまでコーディネーターが行う。

地域コーディネーターは、その業務を行うに当たり、子供たちや学校の状況、ニーズをよく把握する必要がある。このため、学校のよき理解者であるとともに、地域に精通していることも求められる。

具体的には、退職した教職員やPTA役員の経験者などが考えられる。その依頼は、事業の実施主体である市町村教育委員会が行うこととなるが、具体的な人選に当たっては、学校支援という事業の趣旨から、学校の意向に沿うことが望まれる。

3. 3. 2 学校支援ボランティア

「**学校支援ボランティア**」は、実際に支援活動を行う地域住民である。支援活動の内容は、いわゆる学校管理下の活動が対象となるが、例えば、①授業に補助的に入る、ドリルの採点を行うなど授業の補助や実験、実習の補助等の学習支援活動、②部活動の指導、③図書の整理や読み聞かせ、グラウンドの整備や芝生の手入れ、花壇や樹木の整備等の校内の環境整備、④登下校時等における子供の安全確保、⑤学校行事の運営支援など、学校のニーズに応じて様々なものがある。そのレベルも、ある程度の専門性が必要なものから、特段の資格や経験等がなくてもできるものまで幅がある。いずれにしても、ボランティア一人一人が学校の仕組みや教育方針等をよく理解した上で、自らができることを、できるときに、できる範囲ですることが望まれるが、まずは、子供の教育に意欲と関心を持って主体的に参加することが大切と言える。

3. 3. 3 地域教育協議会

「**地域教育協議会**」は、学校支援地域本部においてどのような支援を行っていくかといった方針などについて企画、立案を行う委員会である。その構成員は、学校やPTA、コーディネーターやボランティア代表をはじめ、公民館等の社会教育関係者、自治会や商工会議所等地域の関係者などが考えられるが、具体的には、市町村教育委員会がそれぞれの実情を踏まえて判断することになる。子供の教育について

話し合う組織がすでに地域に設けられている場合には、その既存の組織を地域教育協議会に替えることも可能である。

また、学校支援地域本部の打ち合わせやボランティアの待機、休憩など、本部の活動のための場所については、学校や子供の状況の把握、緊密な連絡や迅速な対応といった観点からも、校内の余裕教室等に置くことが望ましいが、学校や地域の実情によっては近接する公民館等に置くことも考えられる。(参考文献 [20] 参照)

3. 4 事業を実施していく上での留意点

学校支援地域本部事業を実施していく上での留意点を以下に5つ述べる。(参考文献[20]参照)

3. 4. 1 学校のニーズに応じた支援

学校支援地域本部は、学校と地域のパートナーシップにより、学校を核として地域の教育力を高めていこうとするもので、第一義的には学校の教育活動の支援を目的としている。このため、学校のニーズに応じた支援が行われ、それが多様な教育活動や教員の子供と向き合う時間の拡大など教育活動の充実につながらなければならない。

このため、学校支援地域本部においては、学校のニーズに応じて支援活動を企画、実施するとともに、ボランティアとの連絡調整はコーディネーターが一元的に行うなど、学校に極力負担をかけないような配慮も必要である。そのためにも、コーディネーターや各ボランティアが学校の教育方針や仕組み、子どもの状況等をよく理解することが不可欠である。その上で、実際に活動を進めていくなかで本部（コーディネーターやボランティア）の側から支援活動について提案を行うことも考えられる。いずれにしても、学校と学校支援地域本部とが共通理解のもとに双方が主体的に連携し、子供の状況に応じた教育活動の充実を図っていく姿勢が大切である。

3. 4. 2 学校の意識改革と校長のリーダーシップ

3. 4. 1で述べたとおり、学校支援地域本部の支援は、学校のニーズに応じて行われるべきものであるが、一方で学校側にあっては、積極的に地域と連携してその力を借りながら、地域ぐるみで子供を育てていこうとする意識がなければならない。すなわち、各学校においては、校長のリーダーシップのもと、学校、家庭、地域をつなぐ新たな連携方策である学校支援地域本部を積極的に活用することが必要である。

また、連携を進める上では、アカウントビリティを持って学校を一層開かれたものとしていくとともに、学校を単に地域の力を借りるのみならず、積極的に地域に貢献する姿勢も求められる。

このため、校長のリーダーシップの発揮が重要であるとともに、校内、校外での研修の場等を通じ、校長や教職員の地域との連携協力に対する理解や地域の力をうまく取り入れていくマネジメント能力を深めていくことが求められる。中学校区を単位として設置する場合、特に中学校長の十分な理解が鍵となる。

3. 4. 3 地域ぐるみ・社会総がかりでの取り組み

現在、地域活動の担い手は特定の人に限られ、かつ、高齢化が進んでいると言われており、その裾野の拡大が急務となっている。

このため、国や地方公共団体においては、学校支援地域本部を契機として、学校を支援するボランティア活動が国民運動として展開されるよう、その普及、広報啓発に力を入れていくことが不可欠である。

企業においても、社会的責任（CSR）を果たす上で、立地する地域への貢献が求められており、とりわけ地域コミュニティの中心である学校に対し貢献を行うことは重要である。一方で、学校の活性化によって地域が活性化すれば、企業の持続的な発展の基盤ともなる。

このため、商工会議所等地域の経済団体の理解と支援のもと、各企業において従業員の学校支援ボランティアへの参加を促進するなど、積極的な協力が望まれる。

また、保護者の積極的な参加、協力を得て、学校、家庭、地域の一層の連携協力を図ることが不可欠である。とりわけPTAは、これまでも学校を支える存在としてきわめて重要な役割を果たしてきた。今後も引き続き、その重要性は変わらないことから、これまでの蓄積を生かしつつ、地域との連携も深め、学校支援地域本部に積極的に参画していただきたいと考える。

さらに、公民館等の社会教育施設や社会教育団体等にあっては、学校外における子供の教育を通じて得たノウハウを十二分に活用して学校支援地域本部に協力し、学校の内外を通じて子どもの健全育成に貢献することが望まれる。

このほか、教職志望あるいはそれ以外の学生にあっても、子供と関わることや学校で活動することが有意義と考えられることから、大学等においては、学生の学校支援ボランティアとしての活動を促進することが望まれる。

3. 4. 4 関係部局間の連携および他の事業との連携

まず、学校支援地域本部事業は、学校教育と社会教育の双方に関係するだけでなく、地域づくり等の観点から首長部局とも関係する。このため、事業の推進に当たっては、学校教育担当部局と社会教育担当部局、首長部局とが十分に連携協力することが不可欠である。なお、文部科学省においても、生涯学習政策局、初等中等教育局、スポーツ・青少年局等の関係部局の連携のもとに学校支援地域本部事業を推進しており、地方公共団体においても同様のことが求められる。

現在、国及び地方公共団体等において、外部の専門的な人材を有償で学校に派遣する事業（例えば、理科支援員等派遣事業や部活動の外部コーチ）が多数実施されている。これらの専門家が、学校支援ボランティアに対し助言を行ったり相互に交流を深めるなど、各種の外部人材を活用する事業と学校支援地域本部の連携を図る

ことにより、地域の教育力を総合的に高めていくことが望まれる。

また、学校支援地域本部は、まずは学校の教育活動の支援が目的であるが、「放課後子供プランⁱⁱⁱ」や地域の活動といった、放課後・学校外の活動との連携を図ることで、地域全体の教育力の向上につなげていくことも考えられる。

さらに、公民館等において地域住民向けに様々な講座を実施しているが、その成果を学校支援ボランティアに活用できるような内容にするなど、社会教育事業と学校支援地域本部事業の連携を図っていくことも必要である。

加えて、学校支援地域本部は、地域住民の力を学校教育に導入しようとする方策の一つであり、学校評議員や学校運営協議会、学校評価等の「開かれた学校づくり^{iv}」をめざして近年進められてきた施策と軌を一にしている。例えば、学校評議員や学校運営協議会の委員が、地域教育協議会の委員となったり、地域コーディネーターの役割を担うなど、学校支援地域本部に関わることも考えられる。また、学校支援地域本部において支援活動の企画や実施に当たり、学校評価の結果を踏まえることも有意義であり、関係する各種施策、事業間の相互連携を図ることも重要と考えられる。

ⁱⁱⁱ平成 19 年度よりスタートした「放課後子どもプラン」は、地域社会の中で、放課後や週末等に子どもたちが安全で安心して、健やかに育まれるよう、文部科学省の「放課後子ども教室推進事業」と厚生労働省の「放課後児童健全育成事業」を一体的あるいは連携して実施するものである。

^{iv}「開かれた学校づくり」は、学校評議員などを通して保護者や地域住民などの相互の意思疎通や協力関係を高め、地域社会に開かれた学校づくりを一層推進していくことを目的としている。

以上のような放課後子供プランや学校運営協議会等の関連する様々な施策を国民にわかりやすいよう整理して理解を求めることが必要である。また、各地域においては、関連する事業をまとめて一つの事業として実施される場合も多いことから、文部科学省や教育委員会にあっては、関連する事業を活用しやすいようメニュー化するなどの工夫が求められる。

3. 4. 5 持続的かつ自立的な運営

学校と地域との連携による支援は、息の長い着実な取り組みを進めていくことが何より重要である。学校支援地域本部の持続的かつ自立的な活動展開のためには、3. 3でも述べたように、それぞれの本部において、できる支援をできる範囲で行っていくことが大切である。

また、キーパーソンとなる地域コーディネーターの資質向上が必要である。この

ため、教育委員会にあつては、域内の学校支援地域本部のコーディネーターを集めた研修会を開催するなど、その研修や交流の機会を設けたり、行政側のサポート体制を整備するといった支援が求められる。

同時に、ボランティアが意欲と関心を持って、受け身ではなく積極的に活動に参加するようにすることが大切である。教育委員会にあつては、研修等を通じてボランティアの養成を行うなど、地域住民が主体的かつ継続的にボランティアに参加できるようにサポートすることが求められる。

さらに、各教育委員会にあつては、学校支援地域本部の設置に当たり、その持続的かつ自律的な運営が可能となるよう、財政面等において無理のない計画を立てることが必要である。

なお、文部科学省においても、学校支援地域本部の持続的かつ自立的な運営に資するよう、事業の実施に当たっては地域の実情に応じて弾力的に対応することとし、また、ホームページを開設し、各種団体の支援プログラム等の参考となる情報や資料を積極的に提供することとしている。

学校支援地域本部事業は、以上のことに留意しつつ、その事業の活性化を目指していくべきである。

3. 5 事業実現のための体制作りと浜松市の状況

(1) 運営協議会の設置

都道府県・政令指定都市に、行政関係者、学校教育関係者、PTA関係者、自治会等関係者などで構成する運営協議会を設置し、域内市町村における事業内容の検討、広報活動、事業実施後の検証などを行う。

(2) 実行委員会の設置

市町村に、行政関係者、学校教育関係者、PTA関係者、自治会等関係者などで構成する実行委員会を設置し、域内の中学校区で学校支援地域本部の設置するにあたり地域コーディネーター及び学校支援ボランティアを養成、域内の学校支援地域本部事業の事業評価などを行う。

(3) 学校支援地域本部の設置

学校と地域との連携体制を構築するため、学校支援地域本部を設置し、学校支援ボランティアが支援する事業（学習支援活動、部活動指導、環境整備、登下校安全確保、学校、地域との合同行事の開催）を実施する。

学校支援地域本部事業は、基本的には上記（1）～（3）の流れで行われる。ただ、地域においては、和田中のように、すでに学校と地域が連携した教育体制が築かれている場合があり、そういった場合は、既存の体制を応用して、学校支援地域本部事業が行われる可能性がある。

この学校支援地域本部事業の身近な例として、静岡県浜松市教育委員会へヒアリング調査を行った。その結果、まだ事業が始まったばかりで、具体的な方針は決まっていないものの、浜松市でも学校支援地域本部事業は進んでいることがわかった。

浜松市では、最初に学校支援地域本部事業の有用性を検証するために、最小単位校（1中学校、3小学校）をモデル校とし、今後、実際にどう事業を進めていくか、その企画・構想の段階である。

第4章 地域と学校を連携した システムの提案

4. 1 提案システム

本研究において、これまで述べてきたことを踏まえ、学習支援という視点から、学校と地域（人材）の新たな関係を考慮し、円滑な学習支援が出来るシステム、またその活性化に繋がるシステムを提案する。以下にその提案システムの目的と概要を述べる。

4. 1. 1 提案システムの目的

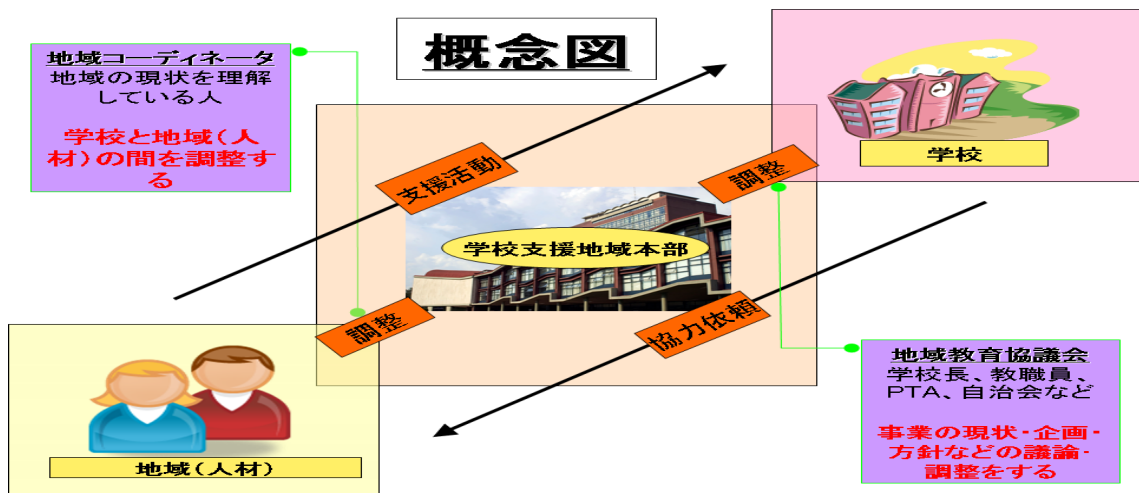
提案するシステムの骨子は、学校支援地域本部事業にある。学校支援地域本部事業の目的は3章で述べたように、学校と地域のそれぞれが抱える問題を解決するために学校と地域のつながりを重視すること、つまり、教育というものを学校という枠の中でだけ行うのではなく、地域ぐるみの学校教育を行うことであり、本研究で提案するシステムの目的は、学校支援地域本部事業がうまく学校と地域の協力を得て、教育というものを全体的に活性化させることが出来るように、それを支援することである。

具体的には、前章の「3. 4 事業を実施していく上での留意点」で述べた5つの留意点の中でも、「3. 4. 1 学校のニーズに応じた支援」と「3. 4. 3 地域ぐるみ・社会総がかりでの取り組み」と「3. 4. 5 持続的かつ自立的な運営」の3つについてを特に支援できるシステムを提案する。

支援する方法については、以下の提案システムの概要で述べる。

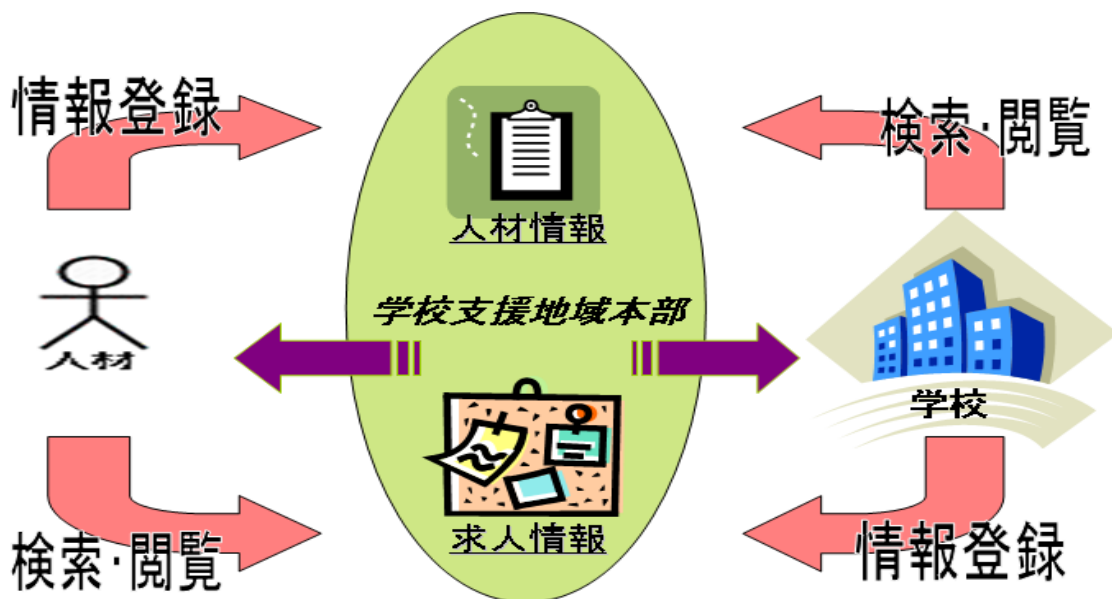
4. 1. 2 提案システムの概要

次頁図4. 1. 1は学校支援地域本部事業の簡単な概念図である。この概念図の通り、学校支援地域本部事業の基本は、学校の教育支援活動にある。それを支援するためには、「学校と地域の間を調整する」と、「事業の現状・企画・方針などを議論・調整する」ことをいかに支援していくかが重要であると考えられる。



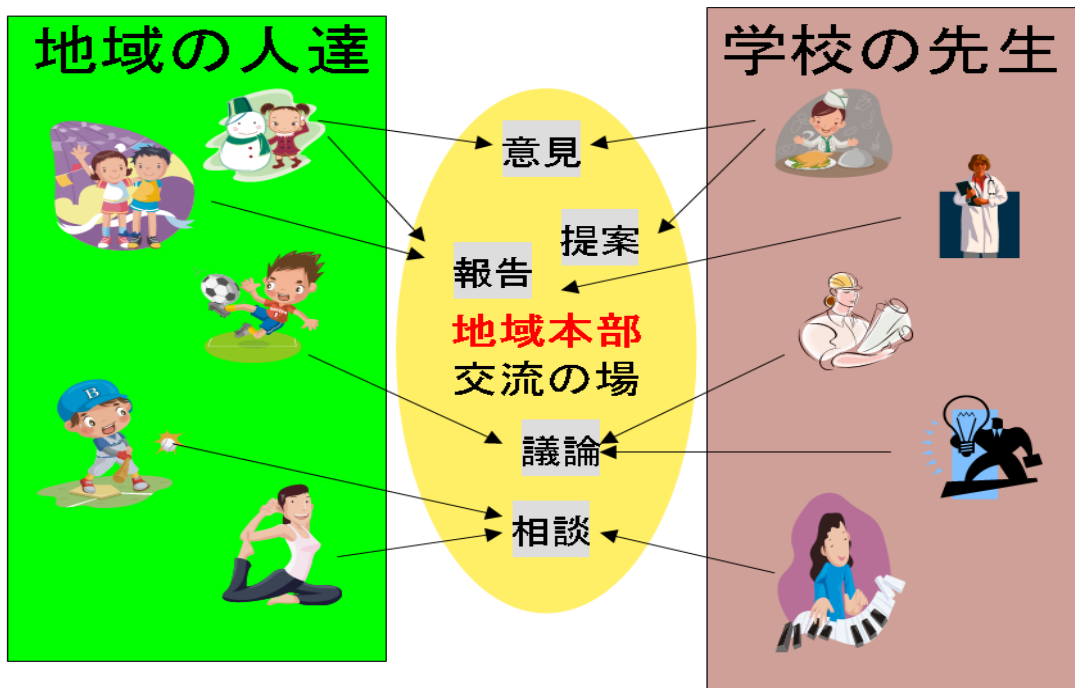
【図4. 1. 1 学校支援地域本部事業の概念図】

本研究で提案するシステムは、この学校支援地域本部事業の活動を支援するものである。この学校支援地域本部事業を踏まえた本研究での提案システム概念図を以下に示し、いかにして学校支援地域本部事業の活動を支援するのかを述べる。(図4. 1. 2、次頁図4. 1. 3、次頁図4. 1. 4)



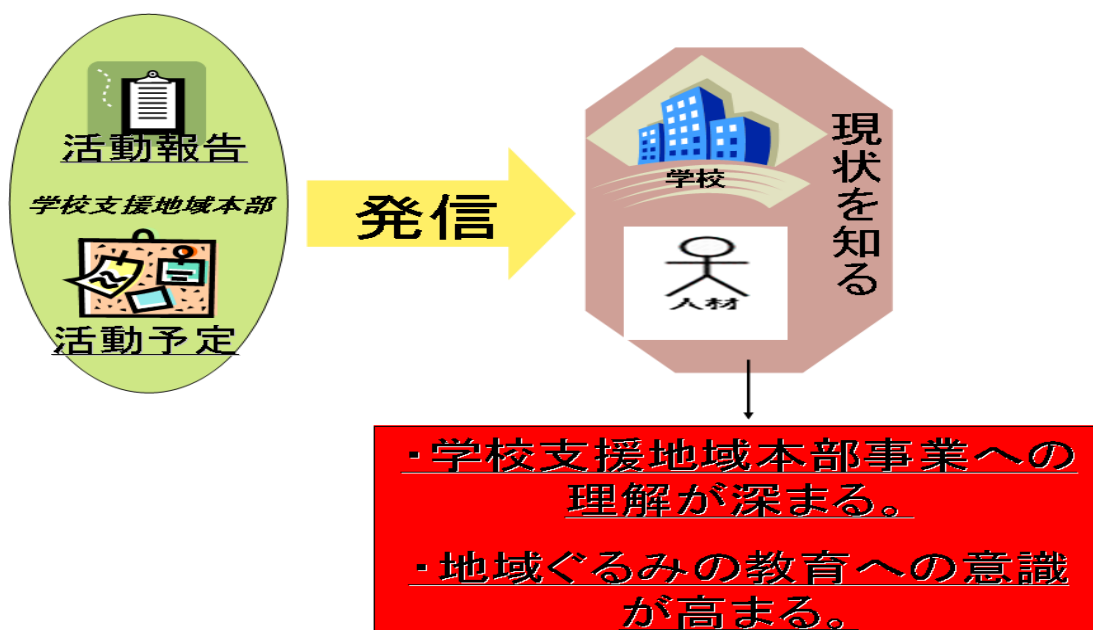
【図4. 1. 2 マッチングの場】

図4. 1. 2は、学校の求人と地域の人材をマッチングさせる場を提供するシステムの概念図である。学校側の求人情報を登録し、それに対し地域の人材がその情報を検索・閲覧できる。また逆に、地域の人材が人材情報を登録し、それを学校側が検索・閲覧できるようにし、両者のマッチングを支援するものである。



【図4. 1. 3 交流の場】

図4. 1. 3 は、学校と地域が交流する場を提供するシステムの概念図である。こういった場を提供することで、地域と学校がそれぞれ忌憚なく発言し合う場所ができ、そこで意見・提案・報告・議論・相談などを行うことで、両者のニーズがわかり、また、事業全体の活性化を促すことにもなる。



【図4. 1. 4 活動報告】

前頁図4. 1. 4は、地域本部が中心となつて行った事業の活動報告や、今後の活動予定を発信するシステムの概念図である。こういった情報発信のシステムがあれば、学校と地域の人達は、地域と学校が連携した学校教育の現状を知ることができ、学校支援地域本部事業への近いが深まるとともに、地域ぐるみの学校教育への意識が高まる。

上記の目的をまとめると、本研究で提案するシステムでは、主に3つの機能を持たせる。

1つ目は、地域の人材と学校の両者がマッチングできる場を提供する(図4. 1. 2)。

2つ目は、地域の人達や学校の先生などが様々な意見を交換できる交流の場を提供する(図4. 1. 3)。

3つ目は、地域本部の活動報告と活動予定を発信する機能を持たせる(図4. 1. 4)。

これらは、学校支援地域本部事業全体の活性化を促すための機能でもある。このシステムを提供する提供側の立場にいるのは学校支援地域本部であり、本研究で提案するシステムは学校支援地域本部向けのシステムであると言える。

4. 2 システムの試作

「4. 1」で提案したシステムについて試作する。試作システムについては、CMSを利用し、提案システムに盛り込んだ機能を持たせる。以下にCMSの説明を述べる。

4. 2. 1 CMS(コンテンツマネジメントシステム)とは

Webコンテンツを構成するテキストや画像、レイアウト情報などを一元的に保存・管理し、サイトを構築したり編集したりするソフトウェアのこと。CMSにはいくつかの種類があり、それぞれ用途や目的が異なっている。無償のものと有償のものがあるが、無償のものはOSS(オープンソースソフトウェア)としてソースコードも含めて公開されており、ある程度の知識(HTMLやJavaScriptなど)があれば簡単にカスタマイズすることができる。その反面、有償のものと比べてセキュリティの脆弱性などの不安要素があり、それに対する保証がないという問題点もある。OSSで配布されている代表的なCMSには表4. 1に示すものがある。(参考文献[22])

【表4. 1 OSSとして配布されている主なCMS】

名称	特徴
XOOPS	ポータルサイト向け、日本向け
PukiWiki	Wikiを用いた辞書サイト向け
WordPress	ブログ向け
OpenPNE	SNSサイト向け、Mixiに似ている
Joomla!	ポータルサイト向け、外国で主流、拡張性に優れる
Moodle	e-learning、学習用サイト作成(オンラインの授業用Webページ)

本研究では、ポータルサイト向けとして導入実績も多く、多くのカスタマイズモジュールが提供されているXOOPS(eXtensible Object Oriented Portal System)を利用する。

XOOPSは、オープンソースの非常に高機能なCMSであるが、その特徴は、多数のユーザを管理し、多数のユーザで1つのサイトを作り上げるようなシステムが作れることである。

この特徴を活かし、学校支援地域本部向けの対話型情報サイトを試作する。以下にXOOPSの説明を述べる。

4. 2. 2 XOOPSとは

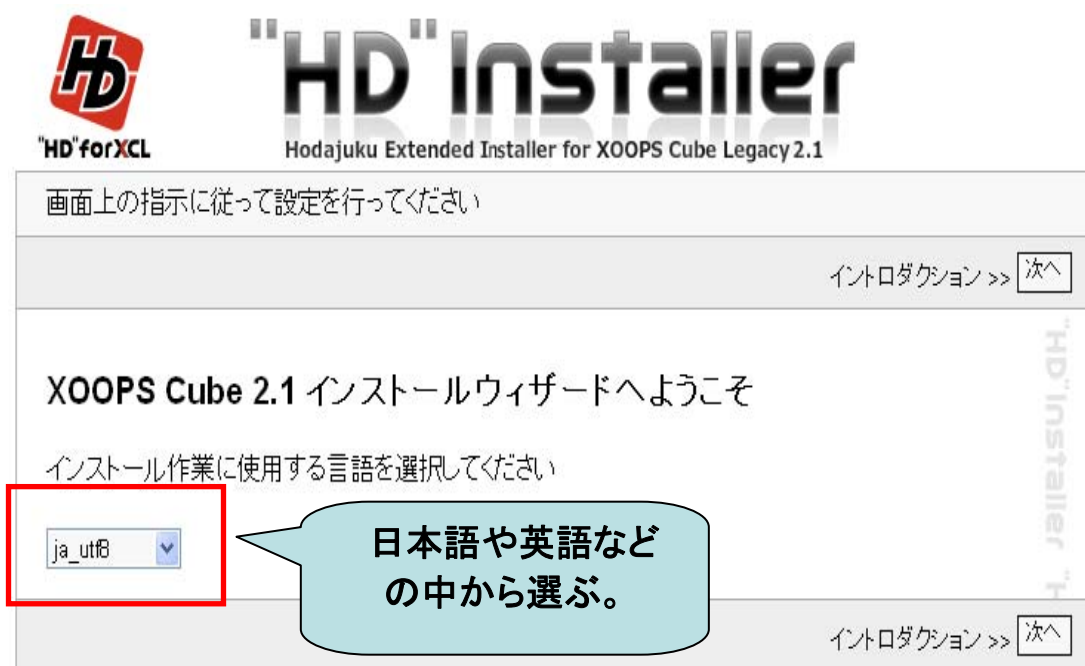
XOOPSは、WEBサイト作成に必要なプログラムや作成ツールが全てパッケージ化されているサイト構築ツールである。WEBサーバはApache、データベースはMySQL、スクリプト言語PHPが動作する環境であれば、簡単にインストールすることができる。

基本機能としては、ユーザ登録管理、プライベートメッセージ、フォーラムなどが提供されており、導入後すぐに運営することができる。

また本格的に運用するためにカスタマイズモジュールの導入が可能である。モジュールは世界各国のプログラマが開発しており、作成者のサイトからダウンロードを行い、指定フォルダに格納し、管理者画面からインストールすることで利用することができる。そのため追加機能を最初から開発する必要がなく、初心者でも必要に応じて簡単にカスタマイズし、オリジナルのポータルサイトを構築することができる。(参考文献 [22])

本研究においては、XOOPSの開発元が公開している「XOOPS Cube Legacy」をさらに使いやすく、高機能にしてある「ホダ塾ディストリビューション」を導入する。ホダ塾ディストリビューションはXOOPS Cube Legacyよりも対応モジュールが多くなっている。

以下にインストールの流れを示す。(図4. 2. 1 ~ 図4. 2. 4)



【図4. 2. 1 XOOPSインストール画面】



"HD" Installer

Hodajuku Extended Installer for XOOPS Cube Legacy 2.1

画面上の指示に従って設定を行ってください

データベース、およびパス・URLの設定

データベースサーバ 使用するデータベースサーバの種類を選択してください。	mysql
データベースサーバのホスト名 使用するデータベースサーバのホスト名を入力してください。 よく分からない場合は、「localhost」として、ほぼ問題はありません。	localhost
データベースユーザ名 上記データベースサーバにおけるユーザアカウント名を入力してください。	<input type="text"/>
データベースパスワード 上記ユーザアカウントのパスワードを入力してください。	<input type="password"/>
データベース名 使用するデータベース名を入力してください。 見つからない場合は、この名称でデータベースの作成を試みます。	<input type="text"/>

データベース名、ユーザ名、パスワードを入力。

【図 4. 2. 2 XOOPSデータベース設定画面】



"HD" Installer

Hodajuku Extended Installer for XOOPS Cube Legacy 2.1

画面上の指示に従って設定を行ってください

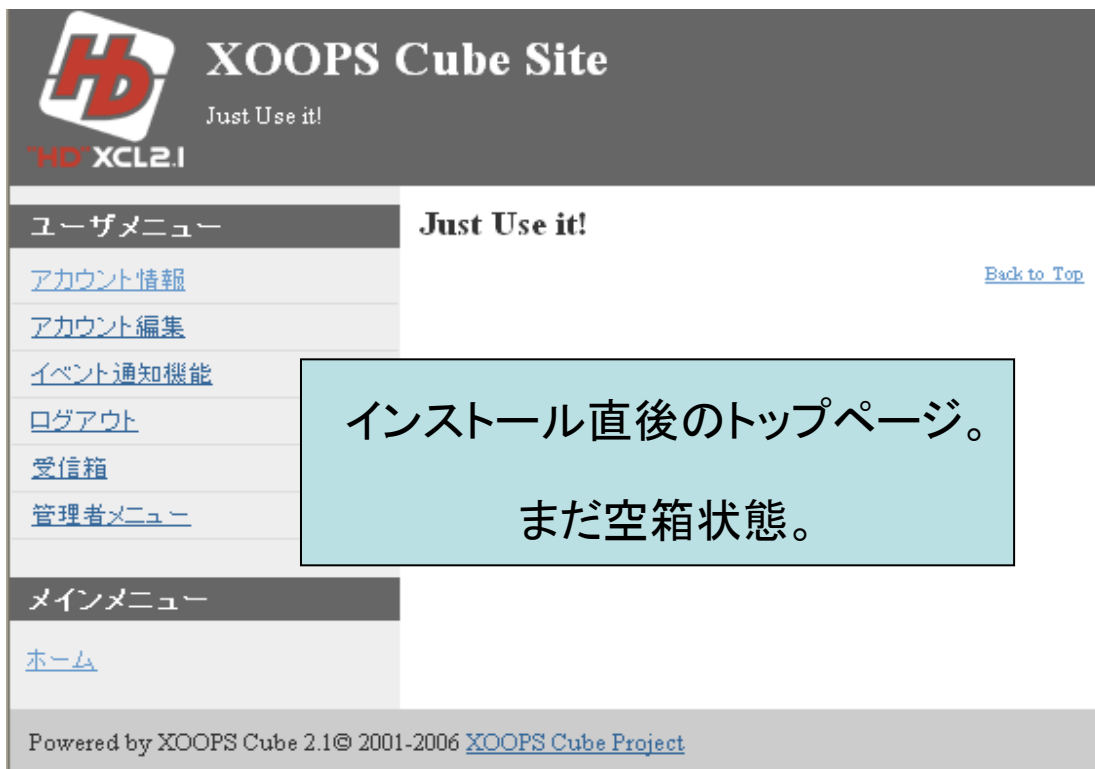
データの生成

サイト管理者のユーザ名、ユーザパスワード、およびメールアドレスを入力してください。

管理者ユーザ名	aaa
管理者メールアドレス	aaa@aaa.com
管理者パスワード	●●●
管理者パスワード(再入力)	●●●

ユーザ名、メールアドレス、パスワードを入力。

【図 4. 2. 3 XOOPS管理者登録画面】

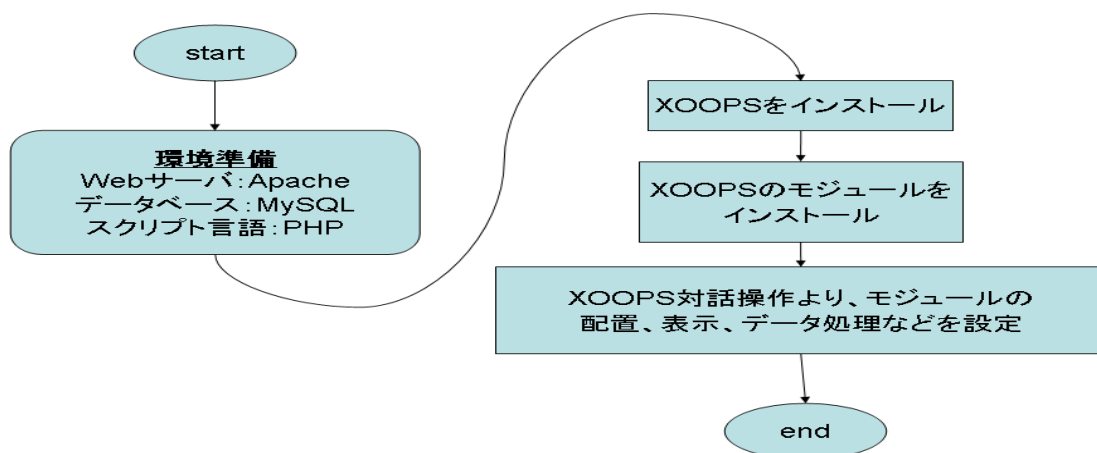


【図 4. 2. 4 XOOBSインストール直後の画面】

インストール直後のXOOBSは空箱状態といえる。ここに任意のモジュールやテンプレートを導入することで、自分が作りたいサイトの作成が可能である。

本研究で試作するサイトには、「4. 1. 2」で述べた機能をモジュールを使ってサイトに盛り込んでいく。

図 4. 2. 5 は、XOOBSにおけるサイト作成の簡単な手順を示したフローチャートである。



【図 4. 2. 5 XOOBSにおけるサイト作成手順のフローチャート】

4. 3 試作サイトの機能

試作サイト「地域本部向け情報サイト」には、大きく4つの機能を持たせた。主なコンテンツは表4. 2の通りである。

【表4. 2 地域本部向け情報サイトの主なコンテンツ】

コンテンツ名	モジュール名	内容
地域本部	Pico	地域本部の活動報告及び予定
人材情報	Flatdata	地域の人材紹介
求人情報	Eguide	学校の求人募集
交流の場	d3forum	意見交流などのためのフォーラム

各コンテンツの内容は、表4. 2で示す通りであるが、

- ①地域本部の活動報告と今後の活動予定
- ②地域の人材情報の登録とその人材の紹介
- ③学校の求人募集の案内掲載
- ④地域と学校とが交流するためのフォーラム

の4つの機能を軸とし、これらの機能を備えたサイトを地域本部向け情報サイトとして提案する。

上記のコンテンツに利用した各モジュールの基本機能を表4. 3に示す。

【表4. 3 モジュール名とその機能】

モジュール名	機能
Pico	静的コンテンツ作成モジュール
flatdata	簡易データベースモジュール
eguide	イベント案内の掲載と、受付処理を行う
d3forum	XOOPSフォーラムモジュール

また、地域本部向け情報サイトでは、サイトを訪れた人は、ゲスト・登録ユーザ・管理者の3種類に分類される。

ゲストは、サイトに登録されていない状態、または登録していてもログインを済ませていない状態である。ゲストは、あまり多くの権限を持っておらず、コンテンツの利用に制限がある。

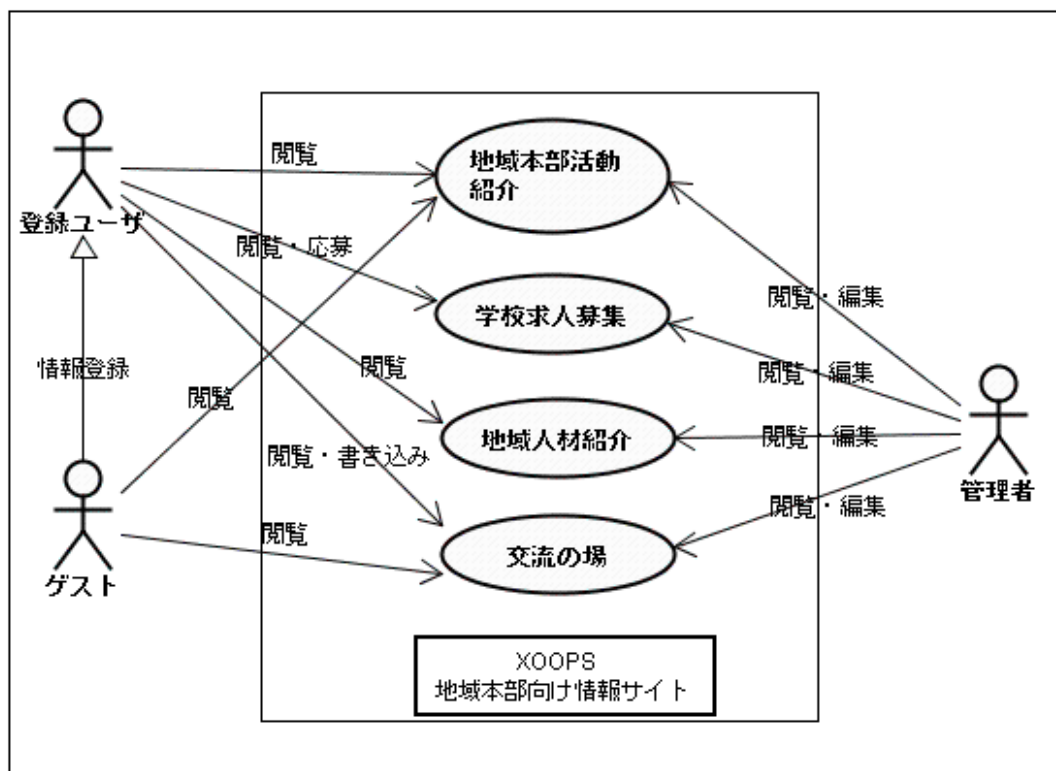
登録ユーザは、ゲストが自身のアドレスなどをサイトに登録した状態で、さらに

サイトにログインした状態である。登録ユーザはサイトの基本的な機能はすべて利用できる。しかし、一部制限がかけられている。

管理者は、その名の通りサイト全体を管理する者で、すべてのコンテンツに対して、すべての権限を持つ。また、コンテンツだけではなく、登録ユーザの管理などにおいてもすべての権限を持つ。その詳細については以下の表4. 4と図4. 3に示す。

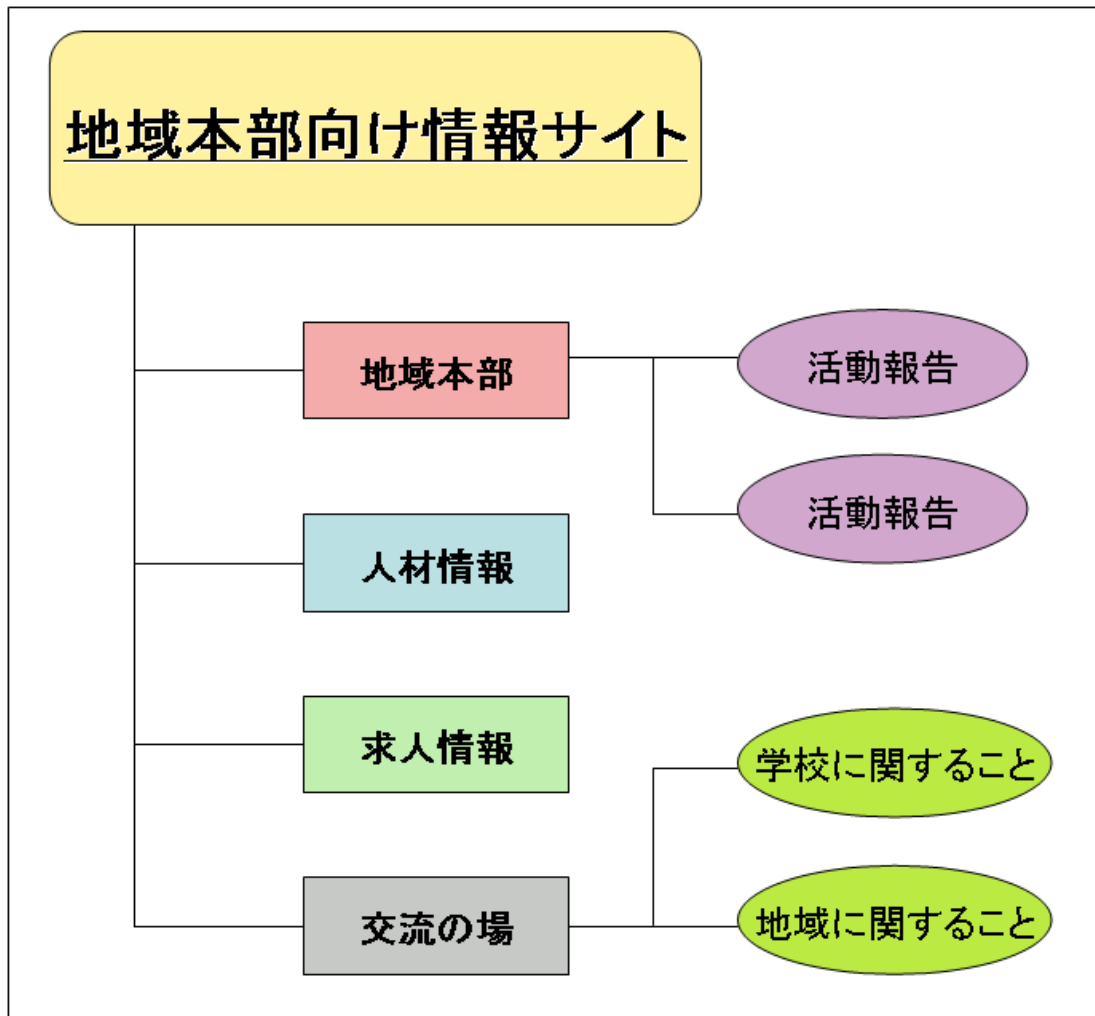
【表4. 4 各コンテンツにおける権限】

	地域本部		人材情報		求人情報		交流の場	
利用者分類	編集	閲覧	編集	閲覧	編集	閲覧	書き込み	閲覧
管理者	○	○	○	○	○	○	○	○
登録ユーザ	×	○	×	○	×	○	○	○
ゲスト	×	○	×	×	×	×	×	○



【図4. 3-1 利用者の分類とその権限】

この4つの機能を盛り込んだ状態の地域本部向け情報サイト（XOOPS）の構成図を以下に載せる（図4. 3-2）



【図4. 3-2 地域本部向け情報サイトの構成】

メインメニューには、地域本部・人材情報・求人情報・交流の場がコンテンツとしてある。地域本部の中には、活動報告と活動予定のカテゴリがある。交流の場の中には、学校に関することと地域に関することのカテゴリがある。

これが登録ユーザと管理者がサイトを訪れた場合の基本的なサイト構成である。ゲストは閲覧権限をもっていないコンテンツがあるため、それらは、メインメニューには表示されない。具体的には、以下「4. 3. 1 トップ画面」にて説明する。

4. 3. 1 トップ画面

次頁図4. 3. 1に提案サイト「地域本部向け情報サイト」のトップページを示す。

サイトの左部に①メインメニューと②ログイン画面が設置してある。さらにその下部には、③交流の場での投稿一覧が最新の順番で表示される。また、画面の中央部には、④サイトの基本的な説明文を表示。その下部に、⑤交流の場でのトピック一覧が表示される。

地域本部向け情報サイト 学校支援地域本部
Regional Headquarter Information Website

メインメニュー

- ホーム
- 地域本部
- 交流の場

ログイン

ユーザー名
パスワード
ログイン
パスワード紛失
新規登録

Regional Headquarter Information Website

学校支援地域本部向けポータルサイト
このサイトは、地域本部向けポータルサイトです。

地域本部では学校と地域が連携した教育を図ります。
このサイトは、その活動支援を目的としています。

主なコンテンツとして、

1. 地域の人材情報
2. 学校の求人情報
3. 意見交流フォーラム
4. 地域本部活動報告

などがありますので、どうぞご利用してください。

投稿一覧

Re: 痴漢被害 hashingo 2009-1-9 8:14
Re: 痴漢被害 aaaaa 2009-1-9 8:14
Re: 痴漢被害 2009-1-9 8:09
Re: 痴漢被害 bb 2009-1-9 8:07
Re: 浜松市の学習塾 ccccc 2009-1-9 7:58
Re: 浜松市の学習塾 aaaaa 2009-1-9 7:56

トピック一覧フォーラム

トピック	返信	閲覧	最終投稿
地域 痴漢被害	3	4	hashingo 2009-1-9 8:14
地域 浜松市の学習塾	2	3	cccc 2009-1-9 7:58
学校 暴力教師→対暴力教師	2	4	bbbb 2009-1-9 7:50
学校 いじめ	3	4	bbbb 2009-1-9 7:45
学校 浜松市の高校受験事情	1	2	hashingo 2009-1-9 7:33

フォーラム内検索へ トピック一覧へ カテゴリ一覧へ

【図4. 3. 1 地域本部向け情報サイトのトップページ (ゲスト)】

この状態はゲストのあるため、権限の持たないコンテンツは表示されない。そこで登録ユーザもしくは管理者はトップページのログイン画面で、ユーザ名とパスワードを入力しログインする。次頁、図4. 3. 2にログイン後のトップページを示す。



【図 4. 3. 2 地域本部向け情報サイトのトップページ (ログイン後)】

基本的なコンテンツの配置はゲストの状態と一緒だが、ログイン後はゲストよりもコンテンツに対する権限が増えるので、①メインメニューに表示されるコンテンツも増える。また、そのメインメニューの上部に②ユーザメニューが表示される。ここでは、登録ユーザのアカウント情報の確認・編集 (図 4. 3. 3) や、プライベートメッセージの送受信などが出来る。

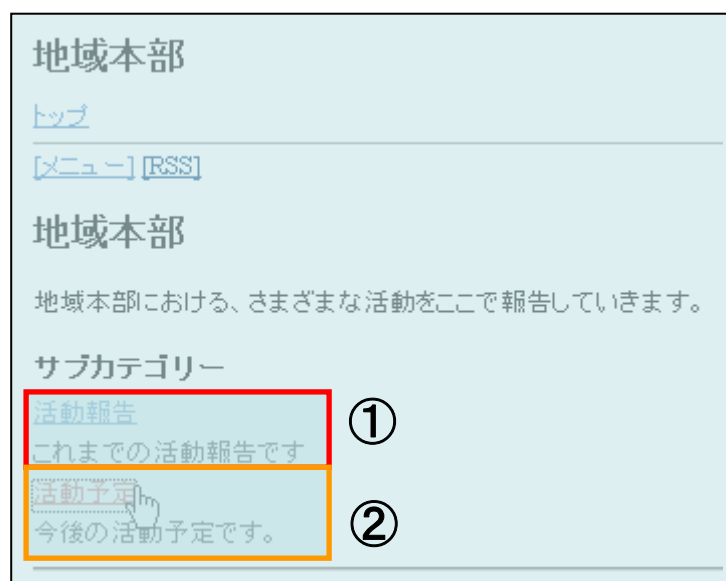


【図 4. 3. 3 地域本部向け情報サイトのアカウント情報】

4. 3. 2 地域本部コンテンツ

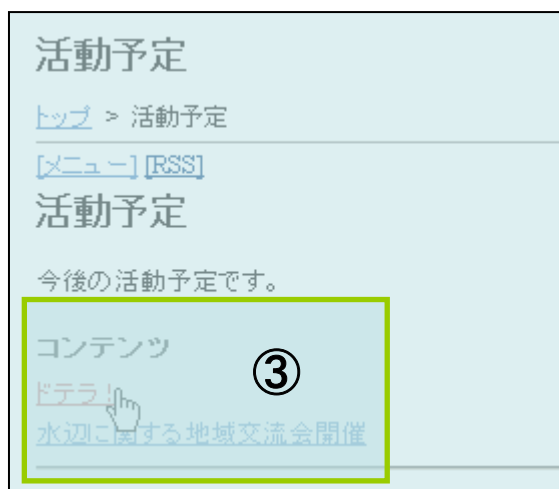
この地域本部コンテンツは、学校支援地域本部の活動内容を紹介するコンテンツである。地域本部のこれまでの活動報告を紹介することで、地域本部の理解を深めてもらうことができ、また、地域本部のこれからの活動予定を掲載することで、地域と学校に対して、地域本部に対する意識を高めてもらうことができる。

図4. 3. 4は、この地域本部コンテンツのトップである。



【図4. 3. 4 地域本部コンテンツトップ】

サブカテゴリーとして、①活動報告と②活動予定があり、それぞれ閲覧したいコンテンツをクリックすると、サブカテゴリーの中にある③見出し一覧に飛ぶ。(図4. 3. 5)



【図4. 3. 5 見出し一覧画面】

見出しの中から閲覧したいコンテンツをクリックすることで、その内容を閲覧することができる。(図4.3.6)

ドテラ！

[トップ](#) > [活動予定](#) > ドテラ！


ドテラをはじめます！

ドテラとは→「学校支援本部で集めた学生ボランティア(略称「学ボラ」、学生だけではなく社会人、フリーターやニートも含まれる)が、土曜日や夏休みに希望する生徒に勉強を教える活動のこと。」

学校支援地域本部が学ボラの募集を行い、年間計画に基づき組織的に運営を行っていく予定です。

土曜日の午前中の時間を有効に使いたい生徒のために、生徒たちの自主的な学習をサポートする目的。そのため、生徒の参加は任意制とし、生徒には年間5,000円の会費を負担してもらおう予定です。

ドテラでは、生徒はその日に勉強したいもの(学校や塾の宿題、予習・復習、テスト勉強や受験勉強のワークシート)を自由に持込み、自主的に勉強し、学生ボランティアがサポートにあたります。



【図4.3.6 活動予定画面(ドテラ)】

この地域本部コンテンツは、基本的には管理者からの一方的な情報発信である。このコンテンツを通して、学校支援地域本部事業について多くの人に知ってもらおうという意味から、ゲストにも情報を公開している。

4. 3. 3 人材情報コンテンツ

この人材情報コンテンツは、その名の通り、地域の人材を紹介するコンテンツである。地域において学校を支援することができる人材を登録し、それらの情報を公開することで、主に学校側が人材を探すのに有効的であると考えられる。

図4. 3. 7は人材情報コンテンツ画面である。

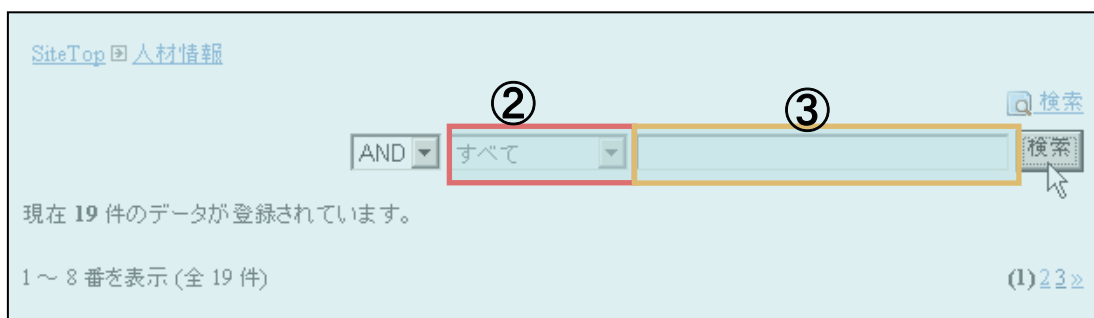
NO	ID	氏名	性別	年齢	住所	指導可能分野	e-mail
1	19	上田明美	女	34	静岡県東区	国語	ertgcv@hotmail.jp
2	18	鴻池修	男	30	静岡県浜松市東区	音楽	ertgd@hotmail.jp
3	17	金子光	男	27	静岡県浜松市北区	社会(公民)	oiuhhnb@hotmail.jp
4	16	大田明子	女	33	静岡県浜松市中区	保健	wertgc@hotmail.jp
5	15	遠藤昭三	男	45	静岡県浜松市南区	理科	vfdsdxfc@hotmail.jp
6	14	伊藤隆	男	40	静岡県南区	数学	serfdcse@hotmail.jp
7	13	坂本喜世	男	29	静岡県浜松市中区	社会(歴史)	cvgfsdf@hotmail.jp
8	12	藤井隼人	男	23	静岡県浜松市西区	体育	gnbghdksd@hotmail.jp

【図4. 3. 7 人材情報画面】

人材の基本データとして表示される項目は、氏名・性別・年齢・住所・指導可能分野・連絡先（e-mail）である。基本的には、ゲストは閲覧不可、登録ユーザは閲覧のみ可である。管理者であれば、必要があれば登録項目を増やすことができるので、それに合わせて表示項目も増える。

また、①右上部の検索をクリックすれば検索画面が表示され、そこで項目ごとのワード検索を行うことができる。

図4. 3. 8は、人材情報コンテンツにおける、人材のワード検索である。



【図4. 3. 8 人材検索画面】

②検索する項目を選択し、③検索ワードを入力し、検索ボタンをクリックすれば、その項目の中でそのワードに該当する人材が絞り込まれ、④検索結果として表示される。(図4. 3. 9)



【図4. 3. 9 人材検索結果画面】

また、人材情報コンテンツにおいては、管理者のみ人材を新たに登録することができる。管理者であれば、検索という項目の右隣に⑤データ登録という項目が表示される。(図4. 3. 10-1)



【図4. 3. 10-1 データ登録画面】

このデータ登録をクリックすると、データ登録画面が表示される。登録項目をすべて入力し、送信すると自動的にデータベースに追加される。(図4.3.10-2)

SiteTop 人材情報 データ登録

検索 データ登録

データ登録

氏名 *	<input type="text"/>
性別 *	<input type="text"/>
年齢 *	<input type="text"/>
住所 *	<input type="text"/>
指導可能分野 *	<input type="text"/>
e-mail *	<input type="text"/>
投稿者	hashingo

送信

【図4.3.10-2 人材登録画面】

4. 3. 4 求人情報コンテンツ

この求人情報コンテンツは、その名の通り、学校からの求人募集の案内を掲載するコンテンツである。学校側が求めている人材の案内を公開することで、地域の人材がその案内を見て、応募し、学校側は人材を確保することができるため、このコンテンツでは両者のマッチングを支援することができる。

図4. 3. 11は求人情報コンテンツ画面である。

The screenshot shows a job information page titled "求人情報" (Job Information). It features two job listings. The first listing, "2009-04-01 (水) 数学教員募集" (2009-04-01 (Wed) Math Teacher Recruitment), is highlighted with a red box and labeled with a circled 1. Below the title, it lists details such as "【数学担当の教員を募集】" (Recruiting math teachers), "中学～高校レベルの数学を教えることが出来る講師募集" (Recruiting instructors who can teach math at middle and high school levels), "募集先: ○○中学校" (Recruiting organization: ○○ Middle School), "勤務地: 静岡県浜松市中区雄踏町" (Work location: Aonuma-cho, Naka-ku, Hamamatsu City, Shizuoka Prefecture), "募集人数: 1～3名" (Number of applicants: 1-3), "着任時期: 2009年4月1日から" (Start date: From April 1, 2009), "問い合わせ先: ○○中学校教員採用担当" (Contact: ○○ Middle School Teacher Recruitment), "053-×××-△△△" (Phone number), and "afhg@hotmail.co" (Email). It also includes "開始時間 08時00分" (Start time: 08:00), "定員数 3人 (応募数 1人)" (Number of positions: 3 (Number of applicants: 1)), and "応募締切時間 2009-3-8 8:00" (Application deadline: 2009-3-8 8:00). A link "ご応募はこちら" (Apply here) is provided. A circled 2 is placed near the details. A circled 3 is placed near a "詳細..." (Details...) link. The second listing, "2009-04-01 (水) 英語講師募集" (2009-04-01 (Wed) English Teacher Recruitment), is also highlighted with a red box and labeled with a circled 1. It lists "【英語の講師を募集】" (Recruiting English teachers) and "中学～高校レベルの英語を教えることが出来る講師募集" (Recruiting instructors who can teach English at middle and high school levels). The status "[混]" (Mixed) is shown to the right of the title.

【図4. 3. 11 求人情報画面】

このコンテンツは、現在、案内が出ている求人を縦に並べて表示している。まず①見出しにどのような求人かが表示され、その下部に、②基本的な求人情報（いつ、どこで、何を）と、その問い合わせ先などが表示される。各求人情報には、定員数と応募締切時間が設定されており、このどちらかが超えると、その時点で掲載が自動的に終了される。なお、細かい設定は、求人情報の登録時に、ある程度は自由に設定できるようになっている。

各求人案内の右下部に表示される③詳細をクリックすることで、その求人の詳細な内容を見ることができる。

図4. 3. 12は、その求人詳細画面である。

求人情報 | 2009-04-01 (水) 数学教員募集

2009-04-01 (水) 数学教員募集 [空]

担当者 [hashigo](#) 登録日時 2009-1-7 11:58 (10 ヒット)

【数学担当の教員を募集】

中学～高校レベルの数学を教えることが出来る講師募集

募集先: ○○中学校
勤務地: 静岡県浜松市中区雄踏町
募集人数: 1～3名
着任時期: 2009年4月1日から
問い合わせ先: ○○中学校教員採用担当
053-×××-△△△
afng@hotmail.co

開始時間 08時00分
定員数 3人 (応募数 1人)
応募締切時間 2009-3-8 8:00

仕事内容: 数学の指導
放課後に生徒の数学の補習指導をしてもらいます。

勤務形態: 非常勤

応募資格: (1) 高卒以上
(2) 大学又は短期大学において教育経験がある(非常勤講師を含む)または、塾等での指導経験が3年以上
(3) 浜松市周辺に居住している

募集期間: 2009年1月08日から 2009年3月08日まで
着任時期: 2009年04月01日から

【図4. 3. 12 求人詳細画面】

詳細については、仕事内容から応募資格まで、細かく書かれているが、これらは求人情報登録時、フリースペースに登録者が自由に書くことができるようになっている。

詳細を確認した後、「ご応募はこちら」をクリックすることで、応募フォームが表

示される。

必須項目を入力後、「応募する」をクリックで応募される。(図4.3.13-1、図4.3.13-2)

2009-05-09 (土) 【クラブ活動の指導者募集】
担当者 [hashingo](#) 登録日時 2009-1-8 13:30 (6 ヒット)
放課後のクラブ活動の指導者募集
募集先: ○○中学校
勤務地: 静岡県浜松市北区
募集人数: 1~8名
着任時期: 2009年5月1日から
問い合わせ先: ○○中学校教員採用担当
053-×××-△△△
dfg@hotmail.jp
開始時間 13時00分
定員数 8人 (応募数 1人)
応募締切時間 2009-4-10 13:00
[ご応募はこちら](#) ④

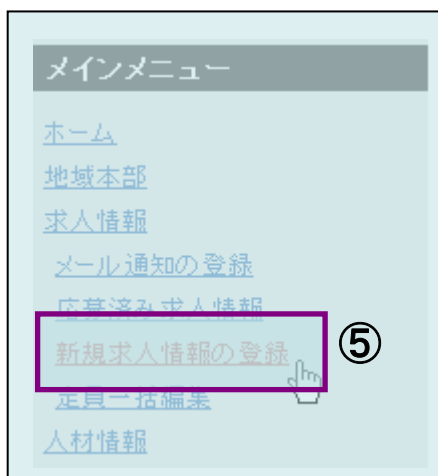
【図4.3.13-1 求人画面「ご応募はこちら」】

応募申込
2009-04-01 (水) 数学教員募集
メール*
 新しい求人情報が登録されたらメールで通知する
名前*
住所
応募をする
*は必須項目です。

【図4.3.13-2 求人応募画面】

また、この求人情報コンテンツでは、登録ユーザと管理者は新たな求人情報を登録することができる。ただし、登録ユーザに関しては、求人情報に管理者の承認が必要である。メインメニュー「求人情報」のサブメニューの中から、⑤「新規求人

情報の登録」をクリックすれば、求人情報登録画面に移る。(図4. 3. 14-1)



【図4. 3. 14-1 サブメニュー「新規求人登録」】

図4. 3. 14-2は、新規求人登録画面である。表題や本文を入力し、その他の、掲載終了時間や定員数などの設定を行えば、求人情報が登録される。

A screenshot of the '求人登録画面' (Job Registration Screen). The page title is '求人情報' and the sub-title is '新規登録求人情報'. The form includes the following fields and controls:

- '表題' (Title): A text input field.
- '開始日' (Start Date): A date input field showing '2009-01-24' and a 'カレンダー' (Calendar) button.
- '時間' (Time): A time input field showing '05:10:00'.
- '掲載終了時間' (Posting End Time): A text input field.
- '曜日' (Day of the Week): A dropdown menu.
- '応募終了時間' (Application End Time): A text input field showing '1時間' (1 hour).
- '開始までの時間を長さで指定する (例: 3日間, 2時間, 50分)' (Specify the length of time from start (example: 3 days, 2 hours, 50 minutes)):
- '繰り返し求人' (Repeat Job): A dropdown menu showing '一回のみ' (One time only).
- '回数' (Number of Times): A text input field showing '1'.
- '本文' (Body): A rich text editor with icons for bold, italic, underline, and text color, and a '追加' (Add) button.
- A large text area for entering the job description.

【図4. 3. 14-2 求人登録画面】

4. 3. 5 交流の場コンテンツ

この交流の場コンテンツは、フォーラムコンテンツであり、地域の人々と学校の教員が発言をすることで、意見交流できる場とする。

また、各種問題提起や提案、議論、相談などが行われることで、地域ぐるみの学校教育が活性化していくことを狙いとしている。

図4. 3. 15は交流の場コンテンツトップ画面である。



【図4. 3. 15 フォーラムトップ】

フォーラムの中には、①学校と②地域というカテゴリがある。それぞれの中でトピックを立て意見交流する仕組みである。

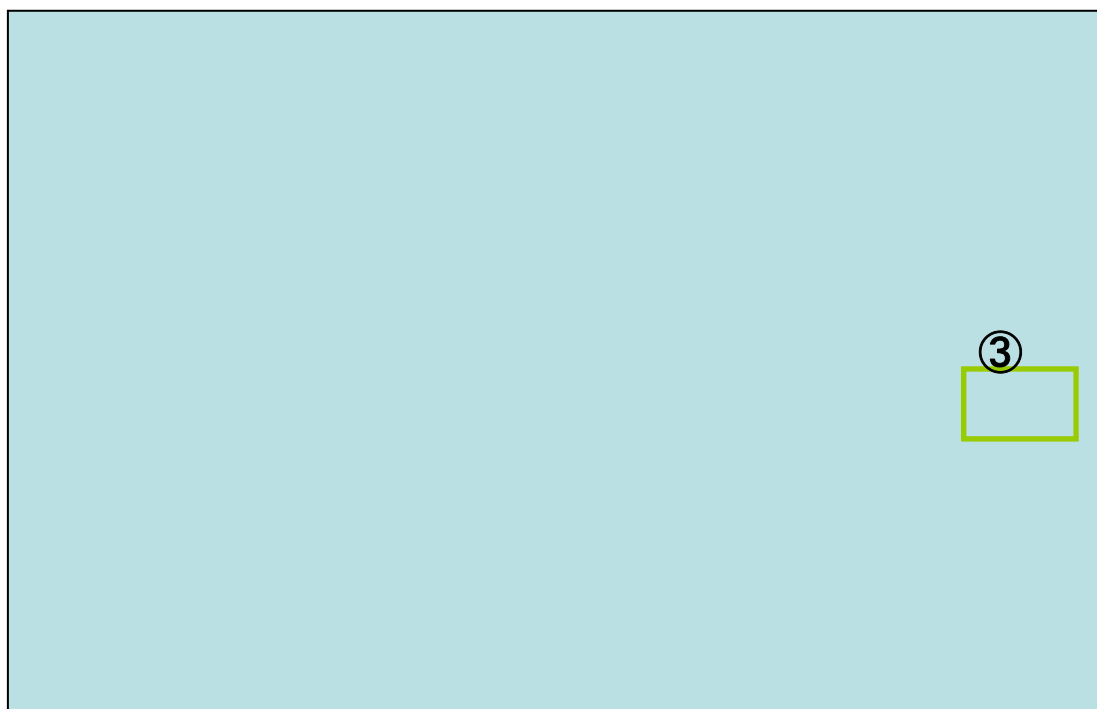
学校のカテゴリの中には学校に関する、地域のカテゴリの中には地域に関するトピックを立てることができる。

図4. 3. 16はフォーラムの学校カテゴリの中身である。

学校							
		最終投稿日降順	トピック再表示				
3件ヒットしました		返信	閲覧	投票数	平均点	トピック開始	最新投稿
	暴力教師→対暴力教師	2	4	0	0.00	2009-1-9 7:47 ccccc <input type="checkbox"/>	2009-1-9 7:50 bbbbbb <input type="checkbox"/>
	いじめ	3	4	1	10.00	2009-1-9 7:37 bbbbbb <input type="checkbox"/>	2009-1-9 7:45 bbbbbb <input type="checkbox"/>
	浜松市の高校受験事情	1	2	0	0.00	2009-1-9 7:28 aaaaa <input type="checkbox"/>	2009-1-9 7:33 hashingo <input type="checkbox"/>

【図4. 3. 16 フォーラム学校カテゴリー内トピック一覧】

カテゴリー内で、気になるトピックがあったら、そのトピックをクリックすることで、内容を閲覧することができる。(図4. 3. 17 フォーラムトピック)



【図4. 3. 17 フォーラムトピック】

トピック内に表示される投稿内容は、上部に位置するものほど古く、下部に位置するものほど新しい投稿となっている。登録ユーザであれば、投稿に対して返信が可能であり、③「返信する」をクリックすることで、返信フォームが開く(次頁図4. 3. 18)

【図4. 3. 18 返信フォーム画面】

この返信フォームに、投稿する本文など入力し、送信をクリックすれば、トピックに対し返信され、トピック内に表示される。

また、管理者と登録ユーザは、新たにトピックを立てることができる。④「このフォーラムに新規トピックを投稿できます」をクリックすると。投稿フォーム画面に移る。

投稿フォームに題名と投稿本文を入力し送信することで新規トピックを立てることができる。(図4. 3. 19、図4. 3. 20)

【図4. 3. 19 新規トピック投稿画面】



【図4. 3. 20 投稿フォーム画面】

4. 4 事例に基づく提案サイトの模擬利用実験

ここでは、提案サイトの有効的な活用法を紹介する。本研究で提案した地域本部向け情報サイトは4つの大きな機能があり、これらを有効活用すれば、地域ぐるみの学校教育の活性化につながると考えられる。

その例として、和田中学校で地域本部が主催となって実際に行われた「サマースペシャル（通称サマスぺ）」を取り上げ、このサマスぺを開催するためには、提案サイトをどのように使っていくべきかを示す。

例) サマスぺ

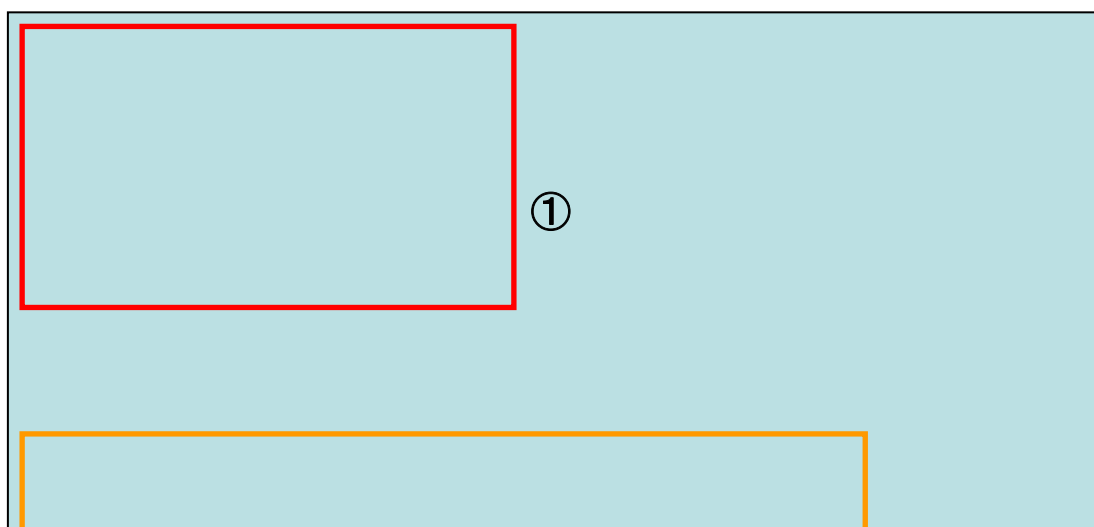
サマスぺが企画され、そして開催されるまで一連の流れの中で、地域本部向け情報サイトをどう利用することが可能かを述べる。

以下の(1)～(3)の流れで、地域本部向け情報サイトのコンテンツを利用していく。

- (1) 交流の場コンテンツ
- (2) 求人情報コンテンツ
- (3) 地域本部コンテンツ

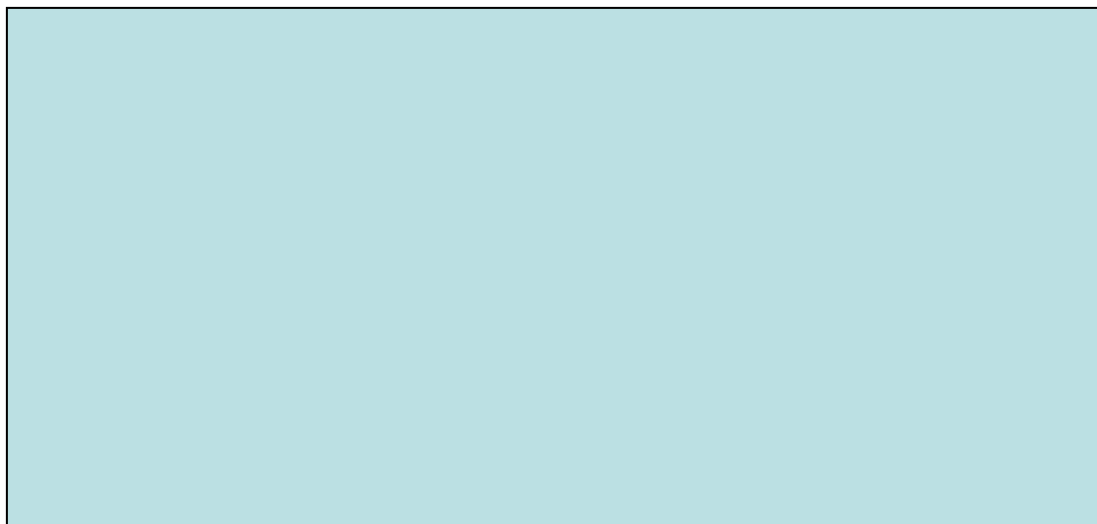
(1) 交流の場コンテンツ

まず、交流の場において、①「夏休みの学習」についてのトピックが立てられ、話題が上がる。(図4.4.1)



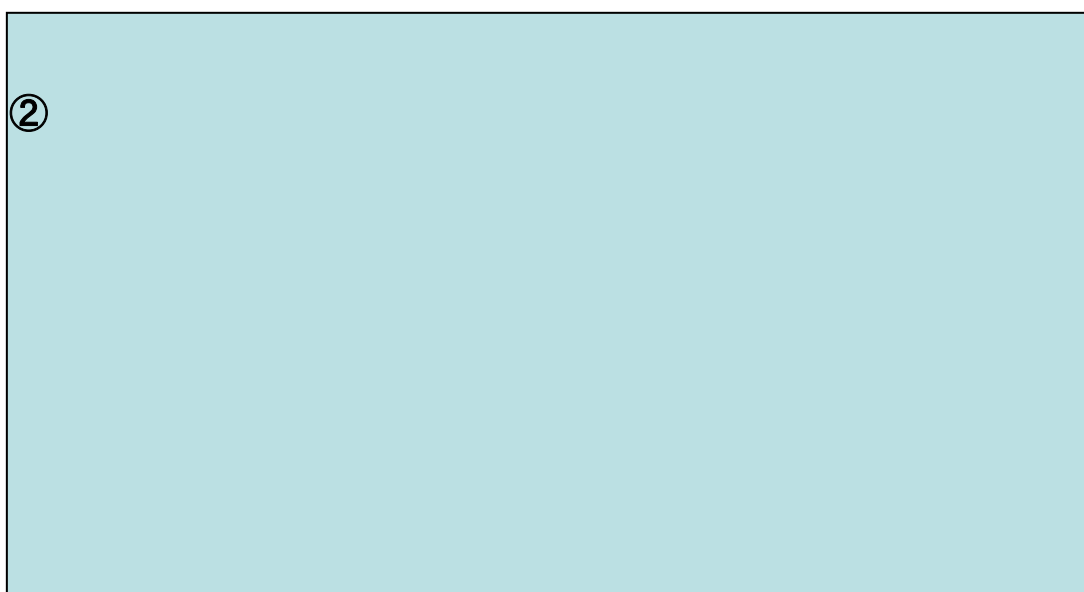
【図4.4.1 トピック「夏休みの勉強」】

このトピックに対し、多くの人返信し、意見が飛び交い、要望や提案などが生まれる。(図4. 4. 2)



【図4. 4. 2 トピックに対しての要望、提案】

このトピックを学校の教員または地域本部関係者が閲覧し、②このトピックに参加することによって、議論され、議題が盛り上がり、そこから現実的な企画の話になる。(図4. 4. 3)



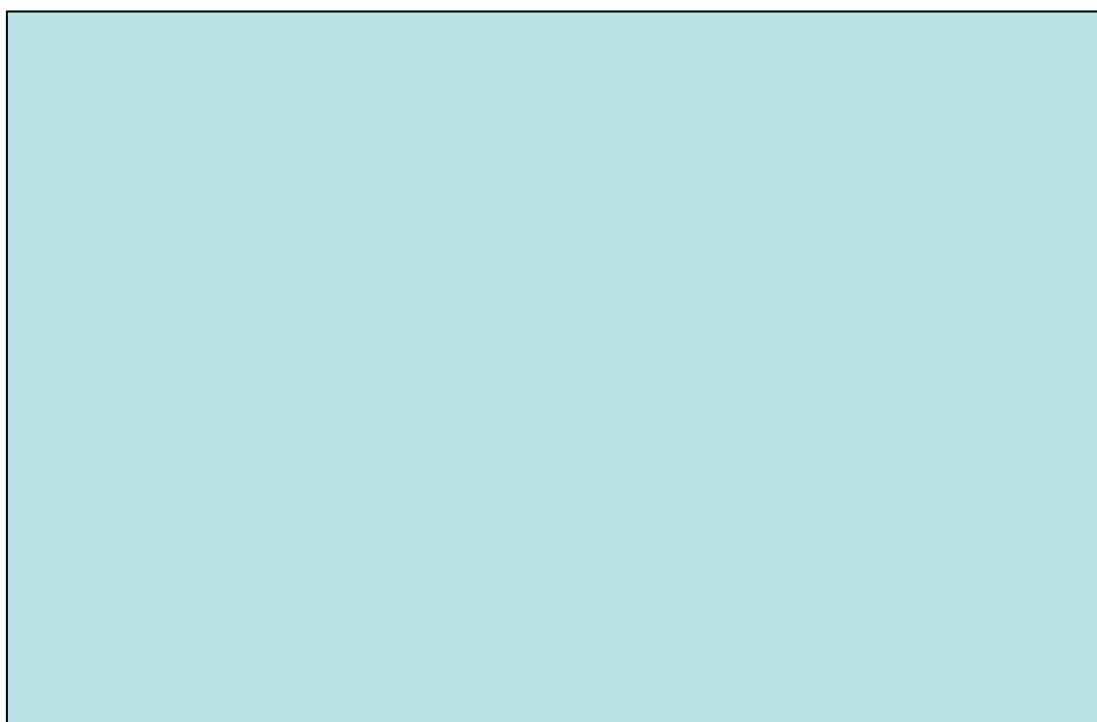
【図4. 4. 3 議題の盛り上がり】

これに対し、トピック内で賛否の論争が起こり、賛成が多数であった場合、学校側で実際に夏休み授業が企画・構想されていく。

しかし、夏休みに生徒を見てくれる肝心の先生が見つからない。そこで次に求人情報コンテンツを使う。

(2) 求人情報

地域の人材の中から、学習支援ボランティアを募る。(図4.4.4)



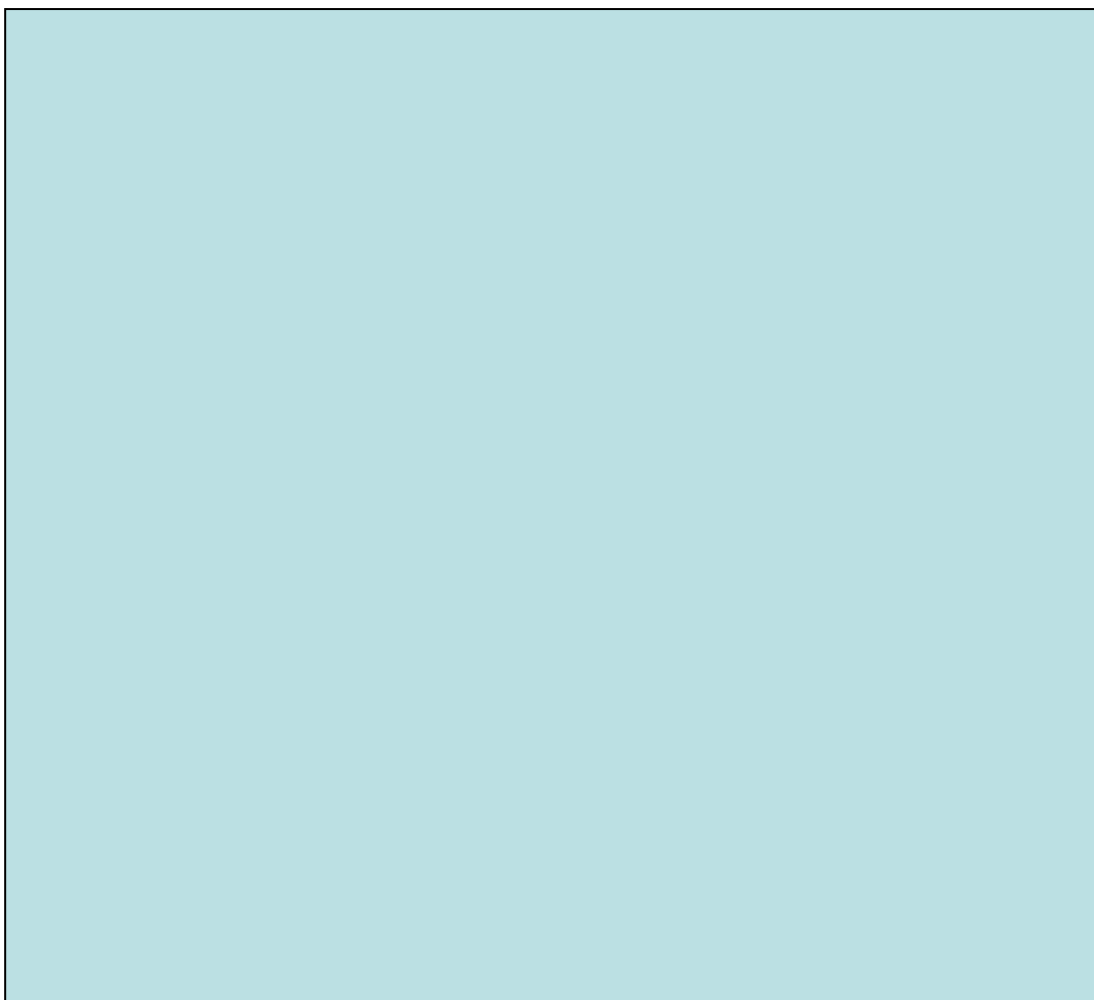
【図4.4.4 サマスペ教員募集】

また、ここは求人情報コンテンツではなく、人材情報コンテンツを利用して、学校側が直接人材に頼むといった流れも考えられる。

この求人情報コンテンツ（人材情報コンテンツ）を使うことで、人材を効率よく募ることが出来る。その結果、今回の企画であるサマスペに適任の人物が見つかる。

(3) 活動報告

学習支援ボランティアが決まり、無事にサマスペを開催する事ができたなら、最後に地域本部コンテンツにおいて、サマスペの活動報告をする。(図4. 4. 5)



【図4. 4. 5 サマスペ報告】

活動報告をすることで、地域本部としての活動をたくさんの人に知ってもらうことができる。その結果、地域本部の活動に興味を持ってくれる人が増え、交流の場などに発言をする人も増え、そこから、また新たな議題が出て、新たな企画へとつながっていくのである。これにより、地域本部事業全体がさらに活性化されていくと予想される。

4. 5 実験の評価

今回の実験では、和田中学校のサマスペを例に挙げ、サマスペを地域本部が運用していく流れの中で、地域本部向け情報サイトをどのように活用していくべきかを述べた。今回の例で挙げた流れをまとめると以下のようになる。

「交流の場」→議題が盛り上がる→具体的な企画が上がる→それを実行する人が必要になる→「求人情報」→無事に開催できる→「活動報告」→地域本部に興味を持つ人が増える→「交流の場」]

このように、地域本部向け情報サイトをうまく使うことで、地域本部の活動を円滑に支援することが出来ると考えられる。

ただ、この提案サイトが地域本部の活動すべてを支援できるのかと言うと、答えはNOである。この提案サイトだけでは支援しきれない部分がある。

それは、例えば上記してある今回の実験例の流れの中で言うならば、企画と実行の間の部分である。

具体的な企画が上がった後に、それを詳細化していくことは、学校側が提案サイトとは関係のない所で話し合いなどを通して決定するしかない部分であるため、この部分に関しては、提案サイトが支援できないと言わざるを得ない。

しかしながら、提案サイトの機能を使った実用的活用法は、今回取り上げた例以外にも、活用法は多く考えられる。また、この提案サイトは XOOBS を使っているため、機能の拡張は比較的容易に出来る。そういった意味で、その活用性には多くの可能性が残されており、地域本部の支援に大きな効果が得られると言える。

この地域本部向け情報サイトを活用することにより、地域本部はさらに活性化し、地域ぐるみの学校教育をより充実して行うことが出来るようになると期待される。

第5章 結論

本研究では、学校と地域が抱える問題点をそれぞれ指摘し、それらの解決するために行われている事として文部科学省の学校支援地域本部事業を取り上げ、この学校支援地域本部事業を支援できるシステムとして、地域本部向け情報サイトを提案した。

地域ぐるみの学校教育というものに関しては、今、全国で様々な方向からアプローチが行われている。なぜなら、学校と地域が抱える問題を解決に導くためには、地域の教育力の向上が必要不可欠と言われているからだ。これに対しては、実際に成果を出している事例も散見されるものの、その地域固有のものであることが多く、他の地域においては課題がまだまだ多い。また、地域における地縁的なつながりが希薄化してしまった昨今、地域ぐるみの学校教育を活性化させていくことは簡単なことではない。しかし、それでも地域ぐるみの学校教育を活性化させるには、「子供たちのためにも」という強い意志を学校と地域住民が共有することが最も重要である。

これからは短期的な視点ではなく、中長期的な視点に立った学校と地域住民との信頼関係を醸成していく必要がある。そのために学校支援地域本部事業は始まったのだ。学校支援地域本部は学校と地域の間中に位置し、その両者の関係を円滑にするものである。具体的には、地域や学校からどのような要望、提案があるのか。それらを実現させるにはどうしたら良いのか。こう言った流れをどちらか一方的な進行で進めるのではなく、両者の対話を通して進めていくのである。これを体現する方法として、本研究で提案した学校支援地域本部向け情報サイトを活用していくことが期待される。

本研究では、文部科学省の平成20年度の新規事業である学校支援地域本部事業に対し、その地域本部向けの情報サイトをOSSの高機能CMSであるXOOPSを用いて試作し、そして、地域と学校間における地域本部向け情報サイトの活用法に関する可能性を確認した。

しかしながら、その試作に予想以上の時間がかかってしまい、「実際に地域本部でこの提案サイト運用するなら」というヒアリング調査を行うことが出来なかった。そのため、実際にこの提案システムを導入したときにどういった問題が発生するかについての検証が不十分である。また地域における地縁的なつながりが希薄化した現状において、どのようにしてユーザ同士がコミュニティを活性化させていくの

かという点についても、この提案サイトの有用性を検証していく必要がある。これらについては今後の課題である。

またこれまで述べたように、学校支援地域本部事業の本質は、地域ぐるみの学校教育を支援するものであり、そのためには、学校と地域の人々の意識を変えていく必要がある。そのため本システムの導入だけでは、地域ぐるみの学校教育を活性化させることはできない。地域の教育力向上を図るべく、学校と地域が意識しながら、主体的に改善活動を継続的に行なっていくという意識改革が必要である。

その第一ステップとして、学校と地域に対するニーズや不満などを収集し、整理や提供の仕方を工夫することによって、学校と地域全体で共有していく必要がある。またインターネット上のコミュニティは、時と場所を選ぶことなく、幅広い世代が協力して活動していくことが可能である。このような点から本システムを活用していくことは将来的にも有用であり、今後さらに継続的な実験を行っていく必要がある。

謝辞

本研究は、静岡大学情報学部情報社会学科湯浦克彦教授のご指導のもとで行うことが出来ました。湯浦教授には、研究面でのご指導のみならず、本論文をまとめるにあたって懇切なるご指導ならびにご助言をいただきました。ここに深く感謝の意を表します。

また研究内容についてご助言をいただきました静岡大学情報学部情報社会学科藤井史朗教授に深く感謝の意を表します。

さらに、共に切磋琢磨し支えあった湯浦ゼミの皆様に、ここに深く感謝の意を表します。

最後に、共に励ましあってきた仲間である、伊藤武司君、河原崎徹君、阪本哲也君、神尾輝世人君、林孝政君、林モチツキ君、山本佳夫君、松崎しげる君に、ここに深く感謝の意を表します。

参考文献

-
- [1] 政府広報オンライン「～地域ぐるみで学校運営を支援～」、
<http://www.gov-online.go.jp/useful/article/200805/3.html>、2009/1/12
- [2] 奈良県教育委員会「地域社会と学校・家庭との連携」、
http://www.pref.nara.jp/jinsyak/plan/plan_8.pdf、2009/1/12
- [3] ウィキペディア (Wikipedia)、<http://ja.wikipedia.org/>、2009/1/13
- [4] ゆとり教育の学力低下ってほんとうなの？
<http://timeeducation.web.fc2.com/>、2009/1/13
- [5] Goo リサーチ「学力低下と変わる学校」、
<http://research.goo.ne.jp/database/data/000570/>、2009/1/13
- [6] 日刊アメーバニュース「定義変更で、いじめ件数が昨年比 6.2 倍に」、
<http://news.amebajp/domestic/2007/11/8615.html>、2009/1/14
- [7] 徹底抗戦！桜魂「小学生の校内暴力、2年連続増 「対教師」急増 文科省」、
<http://nippon7777.exblog.jp/1841331/>、2009/1/14
- [8] ALL ABOUT「小学校で校内暴力が急増中」、
<http://allabout.co.jp/children/childsite/closeup/CU20050926B/>、2009/1/14
- [9] 文部科学省「平成 18 年度生徒指導上の諸問題の現状（不登校）」、
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/19/08/07080133.htm、2009/1/14
- [10] 通信制高校ナビ「不登校」、
<http://www.tsuushinsei-navi.com/futoukou/toukei.php>、2009/1/14
- [11] 「2002年度教職員勤務実態調査」の分析と超勤縮減への提言（日本教職員組合）、
<http://www13.ocn.ne.jp/~toriko/tyoukin2.pdf>、2009/1/14
- [12] 教職員の勤務に関するアンケート結果の概要（平成17年8月）、
<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/parts/000032820.pdf>、2009/1/14
- [13] 厚生労働省「生涯にわたり個人の自立を支援する厚生労働行政」、
<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/01/1-2-3.html>、2009/1/15
- [14] 少子化情報ホームページ「出生数及び合計特殊出生率の推移」、
<http://www.ipss.go.jp/syoushika/>、2009/1/15
- [15] 和田中学校と地域を結ぶホームページ、<http://www.wadachu.jp/>、2009/1/15
- [16] 全国よのなか科ネットワーク「和田中学校流 最強の学校支援本部の作り方」、
<http://www.yononaka-net.com/mypage/saikyo/index.php>、2009/1/15
- [17] Enjoy Teaching English「和田中英語 A コース 英検速報！！！！」、
<http://saieyokohama.blog90.fc2.com/blog-entry-16.html>、2009/1/15

- [18] 学校支援地域本部事業について、
<http://www.nier.go.jp/jissen/syakaikyoubukuka/080215/gakkoushien.pdf>、2009/1/15
- [19] 文部科学省「地域本部事業のスタートに当たって」、
http://www.mext.go.jp/a_menu/01_l/08052911/004/002.htm、2009/1/20
- [20] 放課後子どもプラン、<http://www.houkago-plan.go.jp/>、2009/1/20
- [21] 廣瀬 達也、静岡大学情報学部2007年度卒業論文『ITを活用した中心商店街活性化策の提案』
- [22] XOOPS Cube日本サイト、<http://xoopscube.jp/>、2009/1/20
- [23] Xoops Users Group Japan、
<http://www.xugj.org/modules/manual1/content/>、2009/1/20
- [24] 文系のための XOOPS 入門、<http://xoops.kudok.com/>、2009/1/20
- [25] うさぎにもできるXOOPS Cube入門、<http://usadeki.jp/>、2009/1/22
- [26] 教育しが、「平成 18 年度における暴力行為やいじめ・不登校などの現状とその対策」、
http://www.bibinavi.jp/kyouikushiga/2008_06_30/special/spe_kizi/spe_1126_4.html、
2009/1/22
- [27] TransNews Annex「校内暴力：全国の公立小学校で1890件、過去最悪」、
<http://transnews.exblog.jp/1837975/>、2009/1/22